新京日日新聞
夕刊
十月卅一日（水）

發行所 新京日日新聞社 新京永樂町四ノ一 電話三二二五・三三〇〇
發行人 十河榮忠
編輯人 松本勇
印刷人 水越内之介
一部五錢 一ケ月一圓 前金一ケ年十二圓 ...

十一月五日から明十年度豫算閣議
增稅斷行には曲折を見るも客觀的情勢は承認

【東京國通】非常時克服の昭和十年度豫算案は目下大藏省に於て鋭意査定案作製を急ぎつゝあり近く完了の見透しがついたので、政府は愈々十一月五日から正式に豫算閣議を開く事となつた、しかして十年度豫算中最も重大なる增稅斷行の件は既に岡田首相、藤井藏相の間に略々根本原則を確認してゐるので大體十一月一日頃迄には政府案として最後の原則確定を行ふ筈である、然し乍ら閣内でも床次遞相、町田商相の如き有力閣僚中には

一、增稅の動機及び方法
一、稅源の種類
一、課稅率

の如何に依つては現下日本財界の客觀的情勢よりして簡單には承認し得ずとの意向を抱懷してゐるやうである、從つて右增稅案は軍部大臣からの强硬なる支持あつて結局は實現するにしても之が最終的解決に達する迄には相當の曲折があらう

六省豫算査定結果
＝大藏豫算省議第四日＝

【東京國通】大藏省豫算省議第四日は卅日午前十時より開會前日に引續き歲出豫算の審議をなし外務、商工、文部、司法、遞信、拓務の六省豫算の査定を行つた結果、大体左の如き數字に落着した（單位千圓）

省	新規要求額	承認額
拓務省	一六、〇〇〇	四、〇〇〇
外務省	四九、〇〇〇	六、〇〇〇
文部省	二九、〇〇〇	八、〇〇〇
遞信省	一八、〇〇〇	一二、〇〇〇
司法省	三、三一〇	一、〇〇〇
商工省	六、三〇〇	一、三〇〇

從つて右六省の新規要求承認總額は査定三千二百三十萬圓程度であるが陸軍及び海軍の新規要求承認額二億四千萬圓と三十一日行はれる內務、農林兩省の豫算査定の結果は相當增加するものと觀られるので結局十年度豫算總額は大藏省豫算の二十億圓を遙かに突破し二十一億圓臺に接近するに至つた、政府が增稅を斷行せんとする情勢は最早必至的に傾いたので大藏省主稅局では具体案作成を急いで居るが今回設定せんとする非常時利得稅案は法人超過利得に百分の十課稅を目標とし大体大正七年度の戰時利得稅の如き形をとる方針で特に軍需工業に限定するものでない、その大綱左の如し

一、非常時利得稅は一定限度を超ゆる第二種（法人）第三種（個人）所得稅負擔者に賦課さるゝものは昭和五、六年の利潤利得を基準として見た超過利得とし法人には百分の十內外、個人にはこれ以下の稅率を定める

一、右新稅實施に當り製鐵事業獎勵法、所得稅法に依る免稅規定を認めず、從つてこれが停止規定を新稅法に包含す

一、右新稅の實施に際しては法人個人を問はず規定の免稅點を設く

一、增資に依る脫稅を取締る爲增資額に對する利潤率の認定は昭和五、六年の平均利潤率に依る

一、稅率は比例稅として特に累進率を設けず

査定終了
一日までに

【東京國通】大藏省豫算省議は陸、海、內務、農林四省以外の各省に亘る明年度豫算案の審議には入つたが、大体十一月一日までには一通り各省豫算の審議を終了の方針である、而して既に審議を終つた歲出豫算は陸海軍兩省のみで新規承認額二億四千萬圓、これを明年度豫算總額十六億五千萬圓に加算しただけで早くも十八億九千萬圓に達し、殘りの各省新規要求を最低二億圓と見積つても二十億圓を突破し、明らかに最初の方針二十億圓以外喰止は到底不可能となつた

國策審議會の設置
首相閣議報告を躊躇
政界各方面の反對氣運から

【東京國通】去る廿六日の閣議散會後、後藤、床次、町田三相の進言に基き岡田首相が吉田書記官長に立案を命じてゐた國策審議會の設置問題に關しては卅日の閣議席上岡田首相より當然各閣僚に對して諮るものと觀られてゐたが、岡田首相はその後の政界各方面の空氣が政府の國策審議會設置意向に對して反對の氣運を釀成しつゝある實情に鑑み進んで發言することを躊躇し尙靜觀を續けることゝなつたよつて之が實現されるとしても相當永引くものと觀測されてゐる

金密輸出防止策に
大藏省々令公布

【東京國通】大藏省は豫てより金密輸出の防止策を考究中であつたが此程漸く對策を決定し愈々十一月一日より大藏省令第廿八號に依據して毎月一回金塊業者に對し左の如く情勢の報告を爲さしめることゝなつた

一、精錬業者二十社年額十萬圓以上の取引を爲す地金取引業者に對して毎月定期の報告を爲さしむ

一、報告の項目は月額賣買高期日及賣買先とす

臨時議會召集は
來月廿四日頃

【東京國通】十一月二日の閣議で懸案の臨時議會召集の日取り並びに會期等が決定されゝば三日又は五日官報で臨時議會召集の詔書が公布されることになる筈で召集期日は廿四日頃となるべく會期は七日乃至十日となる見込である

日滿兩國の理解者
デブラン夫人來京

ジュネーヴに於て發行されて居る婦人新聞の主宰者イサベル、デブラン夫人は卅日午前七時着列車で入京した、同夫人は滿洲事變後の四面楚々たる聲の中に在つて終始日滿兩國に對し正當なる理解を持ち一貫せる論調を吐いて來た人であるが今回の旅は日本の實情と整備し行く滿洲建國狀況を視察のためである

風水害罹災兒童慰靈のため
戴氏南京に供養塔建立

【東京國通】南京政府の戴天仇氏は過般の關西風水害による罹災學童の精靈を慰め度いと南京郊外鳳凰山麓生寺に供養塔を建て、又廿八日中國大使館を通じて生前親交厚かつた宮崎滔天氏未亡人宛に班禪喇嘛の秘藏してゐた五寸の觀世音菩薩を贈つて來たので、つき子未亡人は痛く感激して櫻植木二百本を送つて南京供養塔に捧げた

黑河は非常な景氣
木下國輸支店長來八談

【ハルビン國通】國際運輸會社黑河支店長木下千一氏は廿九日來八したが語る

目下黑河の人口は日本人八百、滿人一萬、ロシヤ人三百五十名、其他國境警察隊苦力を合すれば相當の數に達する、黑河の市街は河に沿ふて居るところなどはハルビンによく似てゐる、日本人經營の旅館、料理店、カフエー等廿餘軒あり、日本人の景氣はすばらしいものだ、食料品は三姓から雜貨はハルビンからどしどし輸送され黑河は益々目覺しい發展を遂げるであらう

長官赴旅で
機構問題紛糾大團圓期待

菱刈長官は約一ケ月振りで今朝旅順に向つたが在滿機構問題に絡まる關東廳職員の辭職問題は三局長が廿二日夜新京に於ける長官との會見の結果に基き爾來現地に在つて百方部下の鎭撫慰留に努め既に相當樂觀すべき成果を收めて居る事であり長官のこの南行によつて機構問題紛糾は愈々大團圓を告げるものと期待されてゐる

菱刈長官赴旅

菱刈關東長官は岡村參謀副長並に今岡副官帶同卅一日午前九時發ハトで旅順に向つた

五分利債借換氣運に
市場惡化五十錢方低落

【東京國通】政府は愈々非常時利得稅を課する事となり、一方豫て財界一般から問題視されてゐた五分利債の借換へを敢行する氣運頗る濃厚となつて來たので三十日朝來市場の人氣著しく惡化し五分利債は一氣に五十錢方の暴落を演じこれに續いて四分利債及び四分半利債が一齊に二、三十錢方低落し綱が上にも不安氣分を助長するに至つた、しかして政府としてはむしろこの借換へは遲きに失するものと觀られてゐるが現內閣の組閣當初藤井藏相は增稅及び五分利債の借換へは行はぬと聲明してゐるのでこれを信じて銀行方面の五分利債買持ちは相當多額に達してゐるのでその影響は可成り大きいものと觀られるが然し一面今後の金融情勢が現在のまゝ低金利を續けて行くものと假定すれば爲替相場及び其他の點から見て金から物への時代が續行されるであらうから五分利債の借換へも案外容易に行はれ大した惡結果を見せずに濟むやも知れぬと見る向もある

日銀週報

【東京國通】日銀週報左の如し

發行兌換券	一、一六四、一五一
正貨準備	四一、六〇三
保證內譯	
公債	三三六、六九六
政府證券	五八、六四七
證券	一三四、三六三
手形	一九九、六一九

加藤鮮銀總裁退京

滯京中の加藤鮮銀總裁は卅一日朝のハトで奉天に向つた

癌は米の强硬態度
日英は政治交涉に
＝海軍豫備交涉進展狀況＝

【ロンドン卅日發國通】第三次日米會談は卅一日開催されることになつたが軍縮豫備交涉に對する米國の態度が現行條約維持を

＝楯に＝ 取り單純な日本案の根本原則を受容れぬものである爲め、我代表部ではまだ米國との間に專門家會議を開く段階に達して居ないとの見解を持して居り、從つて卅一日の日米會談でも多分更に日本の根本原則の敷衍的說明が續けられるものと觀られる、しかしながら一方英國に對しては、旣に技術的細目の輪廓も略々說明し盡したので、話は第二段の階程に入り、政治的折衝が今後の展開の鍵を握ることゝなつた、從つて松平サイモン兩代表の友交關係に鑑み、兩者間に極めて自由な意見の交換が行はれることゝなり、先づ卅日再開の英國下院外相室で兩氏の間に極秘裡に午後會見が行はれた、米國の態度が强硬なるに

＝鑑み＝ 其進展如何は豫備交涉の將來に重大な關係を持つものとして注目されてゐる

滿洲國江防艦隊
冬營地に全部歸還

河の新航路開拓に拔群の功績を殘した滿洲國江防艦隊は愈々松花江、黑龍江及びウスリー江が結氷期に入つたので卅日をもつて江防艦全部を多營地ハルビンに引揚げさせたが結氷中江防艦に代るべき警備機關の運用につき種々研究の結果今冬より新裝備の裝甲自動車を松花江水上に疾驅させ沿岸一帶の治安の護りを固くすることに決定した、右に使用の裝甲自動車は滿洲國海軍に於て既に〇臺を完成し、更に〇〇臺を今年中に完成させる豫定になつてゐるがその裝備は水上陸上を自由に疾驅し且人煙薄き地點に長期滯留を餘儀なくされる關係上陸軍のそれと異り重量を輕くした上寒氣と食量の缺乏に堪へる充分なる設備と重機輕機等の兵備が遺憾なく施され、兵員は一臺につき十五、六名が配屬

兇惡なる國境方面の匪賊討伐を始めとし撈力河、アルグン

總選擧に沸騰する米國

【ニューヨーク二十九日發國通】總選擧を一旬の後に控へ全米は今や政戰正に

＝酣だ＝ 十一月六日の選擧では上院議員の三分の二以上、下院全部、二十四州の知事、下は市長並に其他の吏員に至る迄一齊に改選されるのだから全米は選擧騷ぎで湧き返つてゐる、シンクレアー氏がカルフォルニアで人氣を博せば東部では大統領夫人御自身で民主黨婦人候補の應援演說に乘出す等米國ならでは見られぬ賑やかさだ、總選擧の中心題目は結局「ニューディール」を支持するかどうかに歸するがル大統領就任以來最初のテストだけに總選擧の結果如何で米國の景氣恢復の將來が決定されやう從來中間選擧では在野黨が勢を盛り返すのが米國憲政史上の慣例となつて居り上院は兎に角下院で政府黨は卅八位議席を失ふであらう、今回のN、A、R總選擧では依然民主黨の旗色が良くル大統領の人望が依然衰へないことを物語つてゐる、一方共和黨もニラの失敗赤字豫算、不安定な通貨金融政策、救濟資金分配の不正等々を擧げて民主黨の

＝牙城＝ に迫つてゐる、尙ルーズヴェルト大統領が最近財界との接觸をはかつてゐることは注目されてゐる

稅關監視犬
愈よ近く各地に配備
シエパードの活躍期待さる

滿洲國稅關の護りとして過般購入されたシエパード數十頭は其使用人と共に遼陽軍犬育成所に於て訓練中であつたが來る十一月八日其第一回講習を終り、安東、龍井、圖們を始め各國境稅關に使用者と共に夫々配備されることゝなつた各稅關に於ては犬舍其他用意し關係方面へも諒解を得て監視犬使用上遺憾なき手配を進めてゐるが十分訓練された之等精悍なシエパードは各稅關の護りとして軍犬以上の素晴らしい活躍を爲すべく今後不正行爲の監視取締上劃期の效果を齎らすものとして大いに期待されてゐる

遼河出廻り穀物
昨年に數倍

【奉天國通】遼河水運の便による上流沿岸各縣よりの九月中に於ける出廻り穀物數量は之を過去三年間に比較してみるに下航ジャンク積載は増の形勢を示し毎年九月十月は出廻り一時少くなり十一月に至つて九月の約二倍となる例となつてゐる、而して本年の九月は昨年の同期より隻數に於て約七倍穀物數量に於て四倍七分、又價格に於ては約五倍强の增加を示してゐる

報知新聞支局移轉

報知新聞新京支局は今回朝日通り八一に移轉、支局長中西愼氏も同所に轉居した

その日く

□ あすから全滿鐵道ダイヤの大改正、超々あじあ號を更に計畫

□ あじあ號ですら三等乘客ガラあきになりそう、その上の計畫が果して？

□ 技術者の研究にのみ墮して採算を考へぬことゝなれば「滿鐵がまた」の聲

□ 本紙一日より內容外容を一新新京人の新聞を提供せんとするこれ念願

□ 小子再び「その日その日」を復活、せめてもの指針を得ば滿足

人事往來

▲マルニエフニコライ氏（駐哈ソ聯領事館會計士）三十日午前七時着大連から同日午前八時三十分發哈市へ

▲ルツニエフアレクセイ氏（同上外交文書傳達使）同上

▲イサベルデブラン夫人（極東通信代表婦人記者）三十日午前七時着東京から同日午後四時三十分發南行

▲星少佐（新京城內憲兵分隊長）三十日午後七時三十分着奉大から

▲井戶川辰三氏（豫備中將）同上

▲林少佐（吉林憲兵分隊長）三十一日午前六時三十分發吉林へ

▲山內靜夫氏（電々會社總裁）三十一日午前七時着大連から

▲巴英額氏（哈市海關監督）三十一日午前八時三十分發哈市へ

▲菱刈大將（關東軍司令官）三十一日午前九時發旅順へ

▲岡村少將（關東軍參謀副長）同上

▲入田嘉明氏（滿鐵副總裁）同上

▲加藤敬三郎氏（朝鮮銀行總裁）同上京城へ

▲梅津理次氏（官吏）三十日午後三時二十五分着哈市から大和ホテル投宿

▲石田直吉氏（會社員）同上

▲齋藤吉氏（教授）同上

▲久地秀之助氏（官吏）同上

▲吉田豐彥氏（豫備大將）三十日午前七時着大連から名古屋ホテル投宿

最後の切札八枚
■■女八人感激時代■■
（合作）

（近く上映上演斷續）

靜　吟子……峯　吟子
大林梅子……若水絹子
瀧　蘭子……夏川靜江
木下双葉……飯田蝶子
（挿畫 大附彥丈畫）

＝港の彼女達＝
57 鋭いカーヴ（五）

峯吟子作

しかし、曾川はゐる。同じ空氣を吸ひ、同じ街のどこかに、ひそみかくれて、彼女の如く敏捷に活動してゐる。

いつかは！　いつかは！

彼女は、それを思ふたびに、力づけられた。崩れかゝる心魂の蘇へるのを覺えた。

その曾川が、日本にゐなくなるのだ！

曾川を遠い上その國へ逃がすために、五百圓の金を調達しなければならない。

しかも、一週間以內に！

堀口志摩子は、そこで、憤然として、立ち竦んだ。そして、何か新しいものを見出さうとするかの樣に、自分の姿を見廻した。

「恥ぢと汚辱の中に泥れよう！」

×　×

諭儀の白麻の服をキチンと着た青山行夫は、假裝の細身の片刃の鑑を、右指にぐる〳〵卷きつけて、さりげなくヅボンのポケツトに手を突ッ込んで藤椅子にかけてゐた。それは一寸見ると夕涼みと言つた恰好である。

だが、どうして、彼は、モンテカルロの大切なピケであり護衞兵なのである。

彼は、故意とらしくなく、坂の上下を、凡そ三分間の間隔をおいて透し見て、そこには刑事らしい姿を發見しないで、ホッとした。

いろ〳〵な想ひが、彼の感情をかき立てた。

なんにも有たない●

ボスに多過ぎる借金があるほかに。……

彼女は、シエパードに戲れ乍ら、能力から近附いて來る、雪の白い散步服をスマートに着た肩の明るい、何の屈托もない若しい若さに輝いた姿を見使めてゐた。

夏の夜の寢苦しい夢を、藥臭い蚊帳に臨った、明るい浴場に洗ひ流して、朝飯の用意の整ふ間、高臺の朝の空氣を樂しんでゐるのだらう。こういふ幸福をも、自分の個性の權にゐる！

しかし、この人は、この幸福を獲得するために抑も何物を彼が自身に有つてゐるのだらう？

堀口志摩子は、そこで不圖思ふらついた。

「曾川を生かすため」

彼女は呟いて、眉をあげた。自分は何をかすために、……

ふと、今朝——と言つても、こゝでは世間の午後二時だが——たべたお汁粉の甘つたるい味を思ひ出した。それから、それを署つて呉れた志摩子の氣品のある、その癖どことなく肉感的な魅力をたゝへた美しい瞳と、よく均整のとれ、輕やかな肢體の流れを通じて想像される。

夜泣きそばのチャルメラの音が、忍び寄つた初秋の夜らしい寂寥さの中を、どこか遠くない街路で、鳴いてゐる。

通る人も稀だ。

八月十五夜の月が天心に澄みきまつて、彼の店が、その中程にある緩勾配の街路を、隈なく照らし出してゐる。

店の中では、さき程の、旋風の如く、瞬間的に起つた爭鬪を忘れたもの〻樣に、ウォールツの物靜かな旋律が流れ、踊る人々の群を包る甘い、聞に縺つて流れて來る。

躍進又躍進の國都

あすから實施の諸行事

こゝ數日ぽかぽか暖い、がこうした小春日和も恐らく本年最後かも知れない、十一月に入れば今にめつきり酷寒が訪れることになるであらう、あすの十一月一日を考へて見るといろいろの行事が折重つてゐる、いづれも隆々と榮えゆく滿洲國の躍進、國都新京の發展を物語る劃期的な意義あるものばかり、鐵道ダイヤの大改正、東洋一百キロ放送の實現を始め東一條の鈴蘭燈、第三小學校（西廣場小學校分敎場）の假開校、頭道溝郵局の各地ポスト新設等々、いづれも吾々市民に取つて必要なものばかりである、今それらを一々拾つて見やう

ひかり、あじあ、はと　スピード列車連發

新京驛混雜と誤乘防止に大童

新ダイヤ改正で新京驛發着列車數が俄かに增加し驛員は勿論、一般利用者市民も當分の間は列車の發着時刻の變更につけて乘車、送迎にまごつくので驛では繁雜、旅客誤乘のないやう萬全を期してゐるが殊に朝七時にひかり號が發車直後十分後第三十四列車が發車し、十時のあじあ號發車直後十分で第二十八列車、正午のはとの直後十五分で第四十二列車と次々と發車するので旅客の方で相當迷ふものがあるものと見この緩和策として

一、第三十四列車（七時十分發奉天行）の乘客が七時發のひかりに誤乘を防止するためひかり號乘客は一、二等待合室出口から（驛表玄關突當り）第三十四列車乘客は三等待合室出口（賣店左隣）から入場すること

この場合擴聲機で驛員がその旨乘客に告げ、更に誤乘防止を徹底のため案內方が一、二等待合室出口で假改札制を行ひひかり號後部から一、二等待合所出口まで綱を張る

一、ひかり號及び三十四列車發車時において急行券及び乘車券發賣口で日本人案內方を配して急行券を求めるやう說明し、入場口を指示する

一、あじあ號十時發乘客は一二等待合室出口から第二十入列車（十時十分發）乘客は三等待合室出口から入場すること

一、無札旅客を防止するため一、二等待合室出口で案內方が假改札制を行つて一、二等待合室出口からは特急券、急行券所持者及び見送り人以外の者は入場させぬ

一、案內方は發車五分前車內を一巡して一車につき二回（特急券持たぬものは下車すること）と連呼して無札防止を計る

一、はと號の發車の際もひかり號及びあじあ號に准じて發車する

百キロ放送を機に　プロの大改正

國民の時間を制定

新京放送局では今回の百キロ放送を機に、プログラムの大改正を行ひ新たに每日午後八時四十五分より卅分間「國民の時間」を

＝新設＝する外、各地の經濟市況に努力を加へる事となつたが右「國民の時間」制定の趣旨は、百キロ電波の影響地域の全滿的事實に依據しラヂオを通じて國家的結成工作に資せんとするもので例日定刻を期して直接間接に、新國民意識の助長育成、新民族的精神の涵養、伸展を策し以て全體主義的國家理想の具現に導かんとするものであるから、その素材全滿的共通性を不可缺とし、單に新京に限らず各地より求め、その土地の具有する地理的雰圍氣を帶ばしめつゝ、新生文化の交流を誘致する如く處置するもので天氣實況並びにある、右趣旨の實現のために

既に協和會の賛助を得來る十一月四日謝中央事務局長の第一聲によつて

＝全滿＝に呼ひかけんとするものである

改正放送時間左の如し

△第一　平日の部

開始	終了	種目	用語
前六、五〇	前七、三〇	ラジオ體操	日
七、一〇	七、三〇	ラジオ體操	滿
七、三〇	八、〇〇	音樂	日
八、〇〇	八、〇五	天氣豫報	日滿
八、〇五	八、一〇	經濟市況	日
九、〇〇	九、三〇	天氣實況	日滿
九、三〇	一〇、〇〇	演藝	滿
一〇、〇	一〇、一〇	經濟市況	日
一〇、一〇	一〇、三〇	經濟市況	滿
一〇、三〇	一〇、四〇	料理獻立	日滿
一〇、四〇	一〇、五九	經濟市況	日
一〇、五九	一一、〇一	時報	日滿
一一、〇一	一一、一〇	經濟市況	日
一一、一〇	一一、二〇	經濟市況	滿
一一、二〇	一一、三〇	經濟市況	日
一一、三〇	一一、四〇	ニュース	滿
一一、四〇	〇、〇〇	ニュース	日
後〇、〇〇	後〇、〇五	經濟市況	日
〇、〇五	〇、一五	經濟市況	日
〇、一五	〇、三〇	ニュース	日
〇、三〇	〇、五〇	演藝	日
一、一〇	二、〇〇	演藝	滿
二、〇〇	二、一〇	經濟市況	日
二、一〇	二、三〇	經濟市況	滿
二、三〇	二、四〇	家庭講座	日滿
二、四〇	二、五〇	日用品値段	日滿
二、五〇	三、〇〇	經濟市況	日
三、〇〇	三、一〇	ニュース	日
三、一〇	三、三〇	ニュース	日
三、三〇	三、四〇	經濟市況	日
三、四〇	三、五〇	經濟市況	滿
三、五〇	四、〇〇	經濟市況	日
四、〇〇	四、一〇	ニュース	鮮
四、一〇	四、三〇	演藝	鮮
四、三〇	四、四〇	ニュース	滿
四、四〇	五、〇〇	日語講座	滿
五、〇〇	五、三〇	子供の時間	日滿
五、三〇	五、五〇	滿語講座	日
五、五〇	五、五五	氣象通報番組豫告	日
五、五五	六、〇〇	氣象通報番組豫告	滿
六、〇〇	六、二〇	ニュース	日
六、二〇	六、三〇	政府公報	滿
六、三〇	七、〇〇	講演	日滿
七、〇〇	八、二六	演藝	日滿
八、二六	八、三〇	時報	日滿
八、三〇	八、四五	ニュース	日
八、四五	九、一五	國民の時間	滿
九、一五	九、三〇	演藝	滿
九、三〇	九、四五	ニュース	滿
九、四〇	九、五〇	ニュース	英
九、五〇	一〇、〇〇	ニュース	露

△第二　日曜祝祭日の部

開始	終了	種目	用語
前六、五〇	七、一〇	ラジオ體操	日
七、一〇	七、三〇	ラジオ體操	滿
七、三〇	八、〇〇	音樂	日
八、〇	八、〇五	天氣豫報	日滿
八、一五	八、三〇	音樂	滿
八、三〇	九、〇〇	子供の時間	日
九、三〇	一〇、〇〇	講演	日
一〇、〇〇	一〇、三〇	子供の時間	滿
一〇、三〇	一〇、五九	演藝	滿
一〇、五九	一一、〇一	時報	日滿
一一、一〇	後〇、二〇	講演	日滿
後〇、一〇	二、〇〇	演藝	日
二、三〇	三、〇〇	音樂	日
三、〇〇	三、一〇	經濟市況	日
三、二〇	四、一〇	ニュース	日
五、〇〇	五、三〇	ニュース	日
五、三〇	五、四〇	子供の時間	日
五、四〇	五、五五	ニュース	鮮
[illegible]	[illegible]	音樂	鮮
[illegible]	[illegible]	演藝	鮮
五、五五	六、〇〇	氣象通報番組豫告	日滿
六、〇〇	六、二〇	ニュース	日
六、三〇	八、二六	演藝	日滿
八、二〇	八、四五	ニュース	日
八、四五	九、一五	國民の時間	滿
九、一五	九、二〇	ニュース	滿
九、二〇	九、四〇	時事解說	滿
九、四〇	一〇、〇〇	ニュース	露

大同街方面へ　滿電バス運轉

極めて便利になる

滿電では新國都の中心街大同大街、興安大路、同附近と附屬地を結ぶ所謂大同線のバス運轉を明一日から開始する停留場は滿電、新京驛、吉野町、西公園、軍司令部前、康德會舘前、三中井百貨店前、大同廣場、豐樂路、建和路、永安街、康平街で滿電始發が午前七時四十五分、同終發午後八時十五分、康平街始發午前八時、同終發八時三十分で三十分每に發車するが料金はやはり五錢である

滿洲國の　ポスト增設

新京頭道溝郵局では市街地の發展に順應して十一月一日新管理局開設を記念に新たに二十七箇所に郵便函を新設、蒐集區數を三區、速達配達區數一區を五區、通常配達區數一區を增加して通信の敏速を期する

あじあ號は果して　乘手があるか

初日三等車は僅か四枚！

新京驛における三十一日午前十時までのあじあ號一日發車特急券發賣數は大連行一、二等は滿員、大連行三等が僅か四枚のみ、なほ午前中に殘つてゐる分は

△二等大連行二枚、奉天行三十枚、四平街行八枚

△三等大連行五十六枚、奉天行八十五枚、四平街行二十枚

△一等大連行なし、奉天行九枚、四平街行五枚

なほ大連行三等には一日の分四枚、二日の分一枚合計五枚發賣したゞけ

白菊校の　通學バス

あすから運轉

白菊小學校が明一日から假開校するので、同校までのバス運轉方を地方事務所から滿電に交涉中で何分約六百名の兒童が一定の期間を限つて一度に往復するので學校側の希望に對して滿電側に難色あるもやうだが、結局登校前の午前八時から同九時まで、歸宅前の午後二時から三時まで二、三回に分つて運轉することにならう、詳細は三十一日中に決定されることになつてゐる停留場は新京驛前、西廣場小學校、白菊小學校の三箇所の豫定だが滿電側ではどうしても全部の要求に應じ切れないから上級生はなるべく步いて貰ふよりほかあるまいと語つてゐた

白菊小學校　あすから開校

西廣場生も御厄介

西廣場小學校の臨時校舍としてこの程漸く竣成した白菊小學校が一日から開校される、西廣場から引越す生徒數は一二年の四學級、四、五、六年四學級づゝで總數九百餘名である

東一條通の　鈴蘭燈がつく

愈よ明夜から一齊に

東一條通の鈴蘭燈もいよいよ明一日から一齊に點燈される日本橋通大和ホテル角から祝町消防隊に至る兩側で滿洲國帝政記念として本月一日から建設工事に取掛つたもので工事費は一千八百五十圓、久しい間の懸案がこゝに解決されたわけで町內の人々の喜びも想像出來やう

綿布泥棒捕はる

城內大馬路綿布商王名魁氏方店員劉鳳岐（三七）、同張恩（三五）、同賈振三（二八）同家夜警陳林俊（二三）の四名は共謀し同家倉庫から綿布百十疋時價百六十圓を竊取し二十八日午後四時ごろ荷馬車に積込み附屬地で賣却すべく曙町を運搬通行中新京署岩出刑事趙巡捕に發見逮捕された

友邦建國の　人柱に散つた同胞の　魂を求めて（一）

木蘭縣參事　青木勇治郎氏

破壞は易い、けれど破壞の後に來る建設にこそ人間の偉い努力が注がれなければならない、昭和六年九月十八日南滿の一角柳條溝に勃發した鐵道爆破事件は端なくも滿洲國創建の導火線となつた、今や滿洲國は建國の偉業進み王道全滿に普からんとして三千四百萬民衆は新國家治下に新らしい希望に燃えて建設の道を勇進してゐる、滿洲國の前途は輝しい、だが我々は大張き建國の蔭に第一線に立つて

友邦建設に身をもつて殉國した幾多日系官吏の偉い犧牲を忘れてはならない、新國家は彼等の遺志をついで健實な進展を續けてゐる、されば地下に眠る彼等の靈も冥瞑するであらう、今これら滿洲國に殉じた同胞官吏の最期を想起して勇魂を慰めると共に建國全線に活動を續けてゐる人々を力付けたい

▽……△

大同元年八月十七日木蘭縣參事官青木勇次郎氏は北滿一帶未曾有の水害救濟員として內田救濟員と共に木蘭縣に入り危機に瀕した全縣の調査救濟事業に奔命しつゝ、相當急迫せる縣情勢にも怯まず縣城に留つてゐた、同二十八日午後一時江防艦〇〇は救援のため木蘭に急航したが內田救濟員らはハルビンに赴き不在だつたので青木救濟員は岡上隨員と協力同三時同艦に乘り込んで連絡を開始して四時〇〇を去つた、當時木蘭市街は浸水甚激しく青木、岡上兩氏は滿人二名と共に小舟に乘つて街路を舟行して縣城への歸途についたが、舟が着陸數間の所に差しかゝるや、突如長槍を持つた一巨漢が現れて舟を襲つて來た、紅槍會匪である、青木氏は舟首を回らして引返したが、その時既に匪賊は銃火を浴ひせかけてきた、恐怖した二名の滿人は水中に飛び込んで逃亡したが、青木、岡上兩氏は屈せず猛烈なる彈雨の下を懸命な力漕を續けたが商務會附近まで逃れて來た時に「やられた」と叫んで青木氏は舟の中にドツと倒れた、岡上氏は青木氏を介抱する暇もあればこそ、降りしきる彈雨の中を獨り舟を急いだが、その時遲し賊は數十名槍を揃へて舟に乘つて猛然と襲來した

萬事窮した岡上氏は青木氏を背負つて水中に飛び込み難を逃れんとしたが青木氏は苦しい息の中を「俺の身体はどうなつてもよい、君は早く歸つてこの顚末を急報して吳れ」と叫んだが「君を見捨てゝ行けるか死なば諸共だ」と無理矢理青木氏を背負つた岡上氏は水中を徒步して漸く江岸に辿り着い時にはライタ1の公安分局員は既に逃れて一人もゐなかつた、匪賊は早や眼前に迫つてゐる、萬策は既に盡きた、沈勇な青木氏は最後の一案を考へて「來い、あすこには日本軍が澤山お前達を待つてゐるぞ」と絕叫した、肉迫した匪賊も日本軍と聞いて追擊を中止したのでこの間隙を辛うじて小舟で〇〇艦に逃れた二人は艦の指揮敎官中川幸男氏の好意で艦上に收容され、手當を受けた同艦は交戰一時間、各所から集つた匪軍三百を擊退した後、夜八時ごろ拔錨ハルビンに溯航したが、翌二十九日午後三時十分ハルビンの下流三哩の地點で青木氏は岡上氏と艦員一同に見護られながら最後を遂げた、享年二十八

▽……△

青木勇次郎氏は明治卅八年五月神奈川縣三浦郡三崎町諸磯の海邊に生れ小學校卒業後橫須賀市實業學校造船科に入學同科を卒へて拓殖大學拓殖科に入り昭和六年三月同學を卒業した人でその間橫須賀海軍工廠造船部、海軍省艦政本部製圖部等に勤務したこともあり大同元年民政部屬官として渡滿したものである（寫眞は故青木勇次郎氏）

大林組　苦力小屋に强盜

三十一日午前四時五十分ごろ關東軍司令部西側大林組苦力小屋に五名組內一名拳銃所持他の四名はいづれも刀を所持した强盜が押入り就寢中の苦力をたゝき起し苦力一名の顏面に一刀をあひせ逃走した旨西公園派出所に屆出たので本署に急報するとゝもに全署員の非常召集を行ひ犯人の搜査に努めたが逮捕するにいたらなかつたが檢證の結果犯人は强盜の目的でなく怨恨關係で傷害を負はしたものらしい

大谷裏方　高女生に訓話

滯京中の大谷裏方は卅一日寬城子、海軍部、兩嶺を歷訪の上午前十一時から新京高等女學校に至り全校生徒に對し學校敎育は單なる學問や理屈だけを習ふ處でなく信念をもつて世の人のためになる人物とならなければならぬ、それには明治大帝の聖旨を奉体し　宗祖親鸞上人のお言葉を體して生活すべきである

〇〇線附近に　肺ペスト發生

患者續々發生死亡

【大連國通】新京北方〇〇線工事場附近に於て發生した肺ペストはその後益々猖獗の兆を示し三十日建設局入電に依れば前郭旗滿鐵工事區北方面四百米の邦人部落を去る百六十米の國際運輸出張所裏に肺ペスト患者發生死亡し更に二十六日附近より一名發生死亡した、現地では必死の努力を拂つて防疫に努めると共に工事を中止して居るが患者續出の傾向にあり場合に依つては一時工事を拋棄するの他なしと觀られ憂慮されて居る

馬淵機廣島着

【大阪國通】訪滿飛行中故障を生じて機體修理中の馬淵機は卅日午前十一時大阪發、午後零時四十五分廣島に安着した

はずである、詳細は今朝刊所報の通りで滿洲國ポスト利用者に取つては大きな福音であらう

と挨拶、その後川崎布敎師から約二十分に亘つて復演した

函館羅災者　兩女の居所

領事館まで

函館市寶町に居住した中村タミ花田シゲの兩女は本年三月同地の大火災に遭ひ其後滿洲に來り新京曙町四丁目一一太田松藏方に居住したることあり後居所不明であるが今度畏き邊りより御下賜の御內帑金分配傳達方不能により若し同人等の居住先を知るものは新京總領事館に申出て欲しいと

チタに再び　地震

チタ領事より外交部大臣宛『今曉二時三十分當地に再び地震あり第一回に比し多少强し』との情報があつた

遼陽名物葡萄　賣切れ

遼陽驛立ち賣りの遼陽名物の生葡萄は本年の結實不良病害多かつた爲收穫もの少く去る廿五日を以て賣切れとなつた

傷付き乍ら　匪賊を絞殺

―磐石縣巡官の勇猛―

【吉林國通】磐石縣警務指導官より吉林治安維持會への報告によれば、同縣大平屯駐屯縣警察騎兵小隊長巡官潘殿奎の引率せる警察騎兵一小隊は十月廿一日午後一時頃大平屯南方約一邦里の地點を巡回中縣下にても有力なる匪首登山好匪と遭遇、激戰一時間余に亘つたが頑强なる敵匪の抵抗に業を煮した潘巡官は突如部下の先頭に立つて突擊を敢行し匪首登山好と一騎打の格鬪を演じたが頭目を助けんとする匪賊の彈に左腕、腕首の二ケ所を負傷せるに拘はらず遂に登山好を絞殺した、頭目を失つた部下匪賊は死体武器多數を遺棄し敗走したがこの潘巡官の勇猛果敢な行爲に對して吉林治安維持會に於てはその勞を犒ふため近く賞狀及び賞品を追附する筈である

死をもつて　武器を守る

勇敢な滿人　兵士の美談

【吉林國通】額穆縣官地駐屯吉林軍混成第八旅騎兵第十一團第二連准尉陳德勝は部下五名と共に同縣三道溝東方三邦里の地點を開墾中の國道局工事現場を護衛中十月二十二日午後四時過ぎ突如三道溝東方の山林中に潛伏中の匪數百數十名より成る有力なる匪團の襲擊を受けたので直ちに工事現場に使用中の數輛を中心に圓陣を敷き之を擊退せんと交戰二時間に及んだが衆寡敵せず上等兵一名一等兵一名は敵彈に斃れ、生存兵も遂に

の全部をうちつくし、勝に乘じた匪團は工事現場に殺到、准尉陳德勝以下生存の兵三名を拉致して引上げたが奉天省錦縣生れの上等兵關福金（二三）は拉致されるに際して武器を敵手に渡すを恥辱とし附近草叢に武器をかくしこれの所在を如何なる匪賊の拷問にも耐へて語らざるため遂に狂暴なる匪賊の憤ほる所となり銃殺された事實が拉致された後脫走した一兵卒によつて物語られたが間も無く到着した增援隊によつて交戰附近の現場の草叢から鬪上等兵が死をもつて守つた武器を發見、尙附近を搜査中鬪上等兵の死体も發見されたので直ちにこれを團本部に收容したがこの鬪上等兵の勇敢なる行爲は滿洲國軍の精華とするに足る美談であると同地區副問田中少佐は感激して語る

武士道滿洲國にあり日本武士の魂にも劣らぬこの事實を見よ、これ銃器を匪賊の手に委ねるを恥辱として死の脅威を受け乍らその所在を告げざりしものにして銃器尊重の精神の發露と見るべき美談である

仙人掌

新京會館の小林滿子、ちか頃トント腐つて運ぶステップも重そうだ▲心配したのが滿子のパートナーFさんその譯をきくと、あるある腐る理由がちゃんとある▲先日やはり同會館の小林八重子が前借二百なにがしを日頃鍛へたその足で踏み倒して逃げたのが、同姓の滿子と誤報され會ふ人ごとに▲「踏み倒して又舞ひ戾りか」ときかれるので、彼女いくら腐つても腐り足りないといふ氣の毒な心境です▲彼女のパートナーよ滿子はそんな女ではありませんぞ

けふの銀相場

國幣對金票	一一〇〇〇
鈔票對金票	一一三五
鈔票對國幣	九三〇〇
現大洋對鈔票	九六〇〇

夢禮茶語錄 (九)

大正寺詰 甲斐正英

『ハハ…吉田君！これは叔父サンが惡るかつた〻〻』『ヤダイ〻〻叔父サンの馬鹿！』『怒るなよ吉田君！そんなら坊やの父チヤンはなにしてゐらつしやるんだ！』『僕の父チヤンは偉いんだい〻〻』『そうそう父チヤンは偉いね』『僕の父チヤンはね…叔父チヤン…そらあすこにゐるよ』吉田君の指す方を眺めると四つく角の一隅に屋台店が一台眼につく

『坊や！誰もゐないぢやないか！』『叔父チヤン！あすこにゐるよ！』『どこに？』『叔父チヤン盲目ね…あそこで饅頭賣つてるよ…』『アー　あの屋台店か！』『ウン！』『坊やの父チヤン…饅頭屋サンか？』

『ウン！　叔父チヤン！饅頭好き？』『アー大好きだよ』『父チヤンからもらつて上げやうか？』『ハハ…いいよ〻〻』『ネー叔父チヤン！僕の父チヤンが偉いねー』困ります困ります　車掌の父チヤンと饅頭屋の父チヤンとどつちが偉いか？解らない〻〻…僕が頻りに考へてゐる間に『馬鹿！』『おまへが馬鹿だい！』『なに！泣かするぞ！』二人で盛んにイガミ合つてゐる『コラ！又喧嘩する！仲良くするんだ！』『叔父チヤン！僕の父チヤンが偉いんだらう？』健坊が亦判決を催促するです『待て！〻〻』急かるれば急がれる程解らなくなる！　二人の坊やはマバタキもしないで僕を見守つてゐる『ドチラが偉いか？』解らない解らないどう考へても解らない！兎に角坊達には袖の菓子を頒ち與へて喧嘩の仲なほりをさしてほいやつたが『ドチラが偉い？』歩るき乍ら『解らない！解らない！』

新興滿洲帝國の帝都に入つて (中)

大谷光暢伯隨行布教使
大谷派本願寺參教院議長　河崎顯了

回顧するに明治三十七八年の戰役の際、私共の同胞は此滿洲の曠野に尊き生命を捧げて護國の大任を盡したのであります、當時私の二弟も其戰役に從ひ、其一人は生命を君國に捧げて奉天の忠靈塔下に葬られたのであります、私は大正八年の秋の十月其處に參拜し、遺族の一人として無限の感慨に浸つたことでありましたが、私は今茲に參拜し、再び其當時の感慨を新らたにする者であります、思ふに一身一家も大切ではあるが、而も國家と　陛下の大命は、其一身一家よりも尚大切である、大聖釋尊は「家の爲には、我身を忘れ、村の爲には我身と我家を忘れ、國の爲には我身と我家と我村を忘れて、菩薩の大行を修せよ」と教誨せられ、又我宗祖は、念佛の行者は「朝家の御爲と國民の爲に念佛せよそれが報恩の大行である」と訓諭されたのであります、私共淨土眞宗の教徒たる者は造次も此佛祖の遺訓を忘却しないのである、斯うした遺訓を遵奉して心身を捧げて國家の爲に盡したることは、實に限り無き榮譽であると申すべきであり、男子生れて此大任を全ふしたることは亦一代の光榮である、私は奉天の忠靈塔の前に拜跪した時、此辭を述べて我愛弟の英靈に對し、生ける彼れと談ずる思ひを爲した者であります、而して私は今回亦此意を述べて諸士の英靈の照鑑を仰がんと欲して居るのであります

私共は母國より一路新興滿洲帝國の首都に入つた者でありますから、廣き滿洲帝國の全土に亘つては未だ多くの知識を有し無いのであります、而も此滿洲帝國の主腦たる帝都に溌剌たる意氣の漲り渡るものを見聞し、其前途の隆昌を祝福せざるを得ないのであります、而して斯うした殆んど奇蹟的の如き實績の擧れるは全く大滿洲帝國皇帝陛下の御盛德の然らしむるものなることは申す迄も無きことなるも其茲に　るに際し、日滿兩帝國の要路の文武の大官各位の勞苦に對し、衷心より感謝の誠意を表すると共に、此兩大帝國の民衆が一心同體と成つて、獻身的の努力を捧げられたるには、實に力強き感激を致す者である、それと同時に此大事業に身命を捧げられたる勇士の英靈に對して、滿腔の感謝を致さゞるを得ないのであります、大無量壽經の中に「佛の光りは一佛國土を照らし、一々の光りの三十六百千億の光りを出す」と云ふ一文があります、私は此辭を想起すると共に、今日茲に奉安せられたる英靈の純忠至誠の護國の光りは、此滿洲帝國の興隆に對し、限り無き大燈炬と成り、内外幾千萬の民衆をして岐路に迷はしむること無きのみならず、遠く十方に輝きわたりて、其光澤は必ずや全世界の平和を化育するものであると確信する者であります

タロウ ボッチャン 猛獸狩卷

(2)

1

サアジヤクハアキタゾ。ト、イフト、ダチヨウハ、サツキノオバケダマゴヲカブリ、タロウハバタレヴダンノカヲリヲイマダチヨウノウンダバカリノ、ダマゴナヲテマツテキル。キタ〜〜

ドスン ドスン

(2)

2

ウームヒトタサイ、トリクサイ、ト、イヤヤノナクカラデンキダゴリラガ、ヒヨイト、カダツラチミルト、オホニヤウドウノバタモノミダイナ、キミノワルイカイチヨウダ、イマニモトビアキサウニマツテキダ。ウワアーーヘンナヤツガキタゾ

ラヂオ

一日（木曜）新京百キロ放送開始記念特輯番組第一日

午前之部

六、五〇　ラヂオ體操（東京より）
七、一〇　ラヂオ體操（滿語）
七、三〇　音樂（レコード）（日語）
八、〇〇　天氣豫報（日滿語）
八、〇五　經濟市況（東京より）
九、〇〇　天氣官況（日滿語）
九、三〇　演藝（奉天より）（滿語）
一〇、〇〇　經濟市況（大連より）
一〇、一〇　經濟市況（奉天より）
一〇、二〇　料理獻立（奉天より）（日滿語）
一〇、四〇　經濟市況（東京より）
一〇、五九　時報（東京より）
一一、〇一　經濟市況（大連より）
一一、一〇　經濟市況（奉天より）（滿語）
一一、二〇　經濟市況（日語）
一一、三〇　百キロ開始記念電波
　一、日、滿、鮮、露、英五ケ國語アナウンス
　二、日滿兩國歌
　寬城子放送所開局式式場より
一一、四〇　ニュース（東京より）

午後の部

〇、〇〇　經濟市況（東京より）
〇、〇五　經濟市況（大連より）
〇、一五　ニュース（日語）
〇、三〇　演藝（レコード）（日語）
一、二〇　演藝（滿語）（奉天より）
二、〇〇　經濟市況（大連より）
二、一〇　經濟市況（滿語）（奉天より）
二、二〇　家庭講座（滿語）萬國道德會新京總會　張雅軒
二、四〇　日用品値段（日滿語）
二、五〇　經濟市況
　ニュース（東京より）
三、二〇　ニュース（日語）
三、三〇　經濟市況（大連より）
三、四〇　經濟市況（奉天より）（滿語）
三、五〇　經濟市況（日語）
四、〇〇　ニュース（鮮語）
四、一〇　演藝（鮮語）
四、三〇　ニュース（滿語）
四、四〇　日語講座（奉天より）
五、〇〇　子供の時間（奉天より）講師　近藤喜助
五、三〇　滿語講座　講師　萬宮盛逸
五、五〇　氣象通報
五、五五　番組豫告　氣象通報（滿語）
六、〇〇　日滿鮮露英五ケ國アナウンス
六、一〇　挨拶　總裁　山内本社
六、二〇　祝辭　西尾關東軍參謀長
六、三〇　祝辭　鄭國務總理大臣
六、四五　祝辭　丁交通部大臣

加入者招待演藝實演會の夕　大和ホテル會場より中繼

七、〇〇　舞踊　子守一景　立方　大橋のり子
　淨瑠璃　清元　清元連中　笑香
　同　すみれ　京司
　同　安保　さわ
　三味線　すみれ　メ龍
　同　同　メ太
　同　清元延寅子
　鳴物　望月　社中
七、二五　掛合琵琶　項羽　法花山　泉旭春
　法凱院　藤　旭鷹
七、四八　所作事　連獅子一幕
　親獅子　藤間勘多郎
　子獅子　彌生　蝶々
　小蝶　同　惠美子
　小蝶　大橋のり子
　後見　一ッ家　小春
　長唄
　唄　岡安　喜代登機
　唄　岡安　喜代秀
　同　岡安　喜代艶
　三味線　杵屋　十七郎
　同　岡安　喜代八重
　同　曾我乃家　鯉次
　笛　望月　太八郎
　小鼓　同　開花　小新
　同　同　五郎
　太鼓　同　五郎
　同　政　千代
　太鼓　おもちゃ
八、三〇　喜劇　曇り後晴れ　一幕　新京劇現代部公演
　泥棒　武者小路五郎
　會社員　曙　一平
　奥さん　ミス東洋　照子
　擬音效果　河原　定雄
　演出　一條　宗三郎
　新舞踊
　一、吉原雛子　藤間勘多郎（考案振付レコード伴奏）
　　開花　勝丸
　　彌生　ぼたん
　　一ッ家　おもちゃ
　二、佐渡を想へば
　　開花　ひさご
　　彌生　梅香
　　嬉野　豆千代
　　梅月　梅鶴
九、〇〇　滿洲舊劇　美龍鎮　配役
　正德皇帝　張　雲樵
　李鳳姐　錦　湘雲
　伴奏　司鼓　張　連慶
　司手　田　文慶
　司絃　劉　超珍
　同　小　三
九、三〇　總踊り　菊重一景
　立方　彌生　梅香
　同　開花　千代龍
　同　同　ひさご
　同　嬉野　豆千代
　梅月　梅鶴
　開花　勝丸
　一ッ家　おもちゃ
　彌生　ぼたん
　唄　長唄　開花　豐作
　同　一ッ家　おもちゃ
　喜代美
　政　千代
　静江
　三味線　開花　千太郎
　同　一　千惠丸
　萬　榮
　鳴物　望月　社中
　舞臺監督　一條宗三郎

新京手形交換所 あすから開業
鮮銀が委員長に當選

新京手形交換所では一日から鮮銀内で手形交換を實施するが之に伴ひ三十日午前十時から朝鮮銀行で鮮銀、滿銀、中銀、正隆、正金、新京の六支配人會合、委員の選擧を行つた、委員には鮮銀、正金、滿銀の三支配人が推られ、委員長は鮮銀支配人推擧された尙監事鮮銀の馬場秀藏氏、書記は當分鮮銀の松永靜夫氏が兼務することに決定、因に手形交換は毎日午後一時半から二時までとし司法省から認可があるまでは爲替手形、約束手形は取扱はず、小切手、電信爲替受取證、爲替尻受取證、預金證書、支拂命令、配當金領收證、無記名公債、同社債、及ひ之が利札のみを取扱ふ

滿洲國內の
八月中絹織物輸入高

滿洲國內に八月中輸入された絹織物は日本內地百九萬三千四百二十八圓、朝鮮二百七十八圓、民國十六萬三千八百八十九圓、イギリス一千二百四十二圓、フランス九百八十二圓、獨逸百四十六圓合計百二十五萬九千九百六十六圓で、このうち大連港百二十三萬六千七百九十三圓、安東一萬八千百三十二圓、營口二千七百四十圓、山海關九十三圓、龍井村一千七百三十一圓、圖們四百七十六圓の各輸入となつてゐるが本年一月以降の累計は六百五十四萬八百六十四圓で前年同期に比すれば九十六萬二千七百七十七圓の増加を示してゐる尙は累計に就いて品別に重なるものを擧ぐれば人絹と綿との交織が最多で二百五十九萬一千二圓を示してゐる、其の次は純人造絹糸織二百十二萬一千百七十圓、純蠶糸織物はぐつと減つて九十七萬七千四百九十圓、蠶糸と纖維交織は八十二萬五千二百八圓、蠶糸と綿の交織は僅に二萬五千九百九十四圓しかなく人絹織物萬能の時代を出現してゐる様なものである、前年同期に比し人絹と綿交織は實に百九十一圓四千九百六十圓の著増純人絹織も二十萬二千圓の増加純蠶糸織物は四十六萬一千四百四十圓、蠶糸と纖維との交織は七十萬二千九百七十八圓の各減少、蠶糸と綿交織は一萬二百三十圓の増加蠶糸織の凋落を示し、人絹織の躍進は目覺しきものがあるといへる累計に就いて仕出地別に示せば次の通りである

累計	
日本內地	五、四一五、一〇二
朝鮮	三五、八六〇
支那	一、〇六〇、四一〇
英國	一〇、二四四
佛國	二、〇二六
獨逸	三、九八二
其他	一三、二四〇
合計	六、五四〇、八六四
前年	五、五七八、〇八七

甘井子工場の製油年額十二萬噸
滿洲石油會社の全貌

滿洲石油統制問題で果然その焦點となつた滿洲石油會社は本年二月二十一日附政府公帑で公布された同會社法によつて同月廿三日設立されたので資本金五百萬圓此中滿鐵が二百萬圓、滿洲國百萬圓、日本側資本家百萬圓である（日本側の出資は日石を始め三井、三菱、小倉の石油會社が參加して居る）本社は新京にあり工場は甘井子に設置され現在は主に原油精製販賣を爲して居るが精製原料は主として滿洲國產品を使用年產は差當り十二萬噸位と見られる、同社理事長は日本石油會社社長なる貴族院議員橋本圭三郎氏が就任し、副理事長は滿人　酒芳氏で役員は左の通りである

專務理事　佐藤　憲造
常務理事　由利　元吉
　　　　　內田　三郎
　　　　　本多敬太郎
　　　　　安部重兵衛
幹　事　　中谷　芳邦
　　　　　堀　　義雄
　　　　　李　嘉　高

吉林材出廻り 極めて良好

京圖線の開通に依り吉林材の出廻りは極めて盛んとなり既に雄基港に搬出されたもの約一千車に達し尙年內は約一千車の搬出を見る見込で當港の木材界並に運送業は近來にない活況を呈し木材港雄基の面目を躍如たらしめて居るが當地大一商會は當港出廻り木材の約七割の運送を行ひ大國際運輸を向ふに廻しての目覺しい活動振りを示して居るが、更に近日中に同店扱榮進丸が木材約三千噸を滿載して上海に直行の豫定である

海外經濟

倫敦銀塊	二三ペンス一六分九
同　先物	二三　一六ペンス一一
紐育銀塊	五三仙〇〇〇
孟買銀塊	六四留比　六分一五
米英爲替	四弗九六仙四分三

農村に於ける
綿布、石油及小麥粉の消費狀況
＝間島の一例＝

（上）

間島地方に於る戶口の增加交通機關の急速なる發達によつて石油、綿布、小麥粉類の消費は逐次增加の傾向を示してゐるが、地方農村に於ける此等の消費狀況に關しては的確なる統計數字を掲げて說明し難く、殊に滿洲事變以來は軍馬の來往繁く、且つ鐵道工事等特殊の好材料があるため一般物資の消費も平時と稍々異るものがあつた、而して間島地方一帶の農村に屬する戶口數は總戶數の約七割四分に該當し、其中自作農兼小作農階級に屬する小農民約六割五分を占むるの狀態であつて其の生活樣式は極めて貧困のもの丶如くである

綿布

間島地方は古く日韓併合當時より不逞鮮人の巢窟と目せられ更に其後共產主義の浸潤によつて赤化せる朝鮮獨立主義者は多年に亘つて農家に金品を强要せること丶、昭和五年以來の世界經濟恐慌の影響による市場の沈衰、農產物の暴落、農村の疲弊は可成り深刻なるものであつたが、更に滿洲事變の勃發は著しく地方治安の混亂を來し、兵匪共匪の横行甚しく、奧地方面に於ては農耕不可能の土地續出し農村の疲弊困憊は更に拍車を加へらるゝに至つた、更に昭和八年は一般農作物は豐況であつたが、惡材料のため特產穀類の輸出頓に減退し、相場暴落のため農民の手取所得減殺され、農村經濟は萎縮沈衰の域を脫し得ざる情勢にある又同年中には鐵道工事があつて、八年九月京圖線の全通、圖寧線の起工等があつて間島經濟界を刺戟するところあつたが、その影響は寧ろ商工業方面に止り、直接一般農村經濟に好反映を齎すところ尠いものゝ如くであつた

以上の如き惡材料山積の農村經濟事情は農村の購買力を頓に減殺し、間島地方輸入の大宗たる綿布の農村消費額は意外に低く、在住民の七割五分を占める農民を顧客とする綿布類輸入業者は其の商賣に相當の苦心をなしてゐるもの丶如くである

間島地方の自作農の一ケ年平均被服代として生活費中に計上されてゐるものは平均二十圓見當でこの二十圓中婦女子用として人絹類の衣料が約二割を占めてゐるから綿布の消費額は約十六圓に…

縣別	自作農以上（一戶當十圓）	自作兼小作農以下（一戶當八圓）	計
延吉	[illegible]	[illegible]	[illegible]
和龍	[illegible]	[illegible]	[illegible]
汪淸	[illegible]	[illegible]	[illegible]
琿春	[illegible]	[illegible]	[illegible]
計	[illegible]	[illegible]	[illegible]

右表によつて昭和八年に於ける間島農村に於て消費せる綿布價額は約七十五萬圓と算定される

又八年度に於ける綿布の…は百一萬一千餘圓…て農村戶數との比率は…

上海標金・各地市場

▲米棉　米日爲替、米支爲替、スチール株、アナコンダ株

▲上海標金　現物、十一月限、十二月限、一月限、三月限、五月限、七月限；昨日引、高値、安値、本日寄、歩値

▲上海日本向　第一回、第二回、第三回

▲上海倫敦向　第一回、第二回

▲上海紐育向　第一回、第二回

▲大連金鈔票　現物、十四日限、廿八日限、寄付、歩値

▲大連上海向　現物、出來高、大連銀大洋、安、高、引

▲大連煙台向

各地市場

阪神日米

▲大阪株式　株、新東、新紡、新

▲同　短期

▲大連株式

▲奉天取引

▲仁川期米

▲大連特產

新京市況

大豆、包米、大米、豆餅、豆油、鈔票、砂糖、小麥粉、金票

新版江戸八景
（上映　日活）
行友李風氏作
畫　鏑木清方　他二氏

一〇八　旗本くづれ　二二
瀧川駿　（三）

十七里の胸

「有難とうよ。」

と、お玉は嬌氣を見せた。

さて一人になると、やくざの女だけに、度胸が出るらしい。

先刻からくゆらしてゐた細身の煙管を襟に差し込んで、しやがみ腰になつて、草鞋の紐を締め直した。落つき拂つて、頭の手拭を直して、旅び拔毛の身繕ひを直し

睨み出さうとする矢先、

「姐御、旅びは急ぐのは野暮だ…」

だが、この女は普通のやうな…には行かない。泣きもしなければ怖びえもしない。――打つて來る…の鋒つ先をかはして、

「女の一人旅と侮つて、妙なちよつかいをすると痛い目を見せるよ。」と、例の凄し目で睨む。

「何にを。」

と、振り被つて來るのを、巧に避けて、

「これでも旗本の娘だ。生アをすると腕の一本や二本はへし折るんだよ。」

と、負けぬ氣の啖呵。――

どうもこの啖呵は嘘でなささう…

運勢

十一月一日　木曜　丙子　友引　滿　奎宿

●一白の人　一途に望みを遂げんとせば進路に妨げ起る　甲と乙と寅が吉
●二黑の人　逡巡して事を遂げ難し初志の達成に努めよ　丙と壬と艮が吉
●三碧の人　間隙を生じ人に乘ぜられ易き日なれば注意　甲と丙と申が吉
●四綠の人　着實なれば平安を有つ日金談は見合すべし　乙と丁と申が吉
●五黃の人　事志に添はざる日失費散財も多からんとす　申と癸と丑が吉
●六白の人　蟻の穴より堤も崩る用意周到に事を進めよ　巳と辛と壬が吉
●七赤の人　失費意外に嵩みて收拾困難に陷ることあり　庚と壬と丑が吉
●八白の人　舊態の維持に努むべき日又盜難失物に注意　辛と丑と寅が吉
●九紫の人　人後に落ちず卒先して働きまくれば發展の兆　巳と庚と亥が吉

大阪商船出帆

門司、神戶（大阪行）
（午前十時大連出帆）

船名	日
うらる丸	十一月一日
香港丸	十一月二日
ばいかる丸	十一月三日
たこま丸	十一月五日
うすりい丸	十一月七日
亞米利加丸	十一月八日
はるびん丸	十一月九日
長安丸	十一月十日
吉林丸	十一月十二日

切符發賣所
專屬荷扱所
大阪商船株式會社
新京支店

滿洲行・日本行

新京－京圖線經由－日本行最捷路

日本行　滿洲丸、天草丸
北日本汽船株式會社
國際運輸株式會社新京支店

新京日日新聞
朝刊
本紙夕刊共八頁

本紙定價 一部五錢 一ヶ月一圓
廣告料金 普通一行 一圓三十錢 特別同 二圓五十錢
發行所 新京永樂町四ノ一 新京日日新聞社 電話三二二五・三三〇〇
發行人 十河榮忠
編輯人 松本勇
印刷人 水越內之介

討伐か歸順工作か 岐路に立つ對匪政策
その根本策に對する私見（上）
三好清太郎

滿洲建國の眞精神を解せず、治安工作上常に障碍となつて日滿軍憲に手を燒かせてゐる匪團、これこそ產業的に伸暢せんとして、伸暢する能はざる滿洲の癌である事は、更めて說くまでもなく何人にも首肯されるところである、對匪工作は從來種々なる方法に於て屢々行はれた

□

彼等の集團的勢力を粉碎して徹底的に潰滅せんとする武力討伐は、日滿兩軍の既定方針で已に莫大な經費と、時に貴重な人命を犧牲として幾百回となく試みられた、此の結果は如何であつたか勿論其の地方的狀況によつて軌を一にする事は出來ないけれども、滿洲全體の現況から見て、今日迄の討匪工作により、治安が完全に確立されたとは、遺憾ながら斷定し得ないのである

然らば討匪工作に專念する日滿軍隊に其の能力が無いかと言ふに、滿洲國軍隊は別として、皇軍の威力たるや實に申分なきまでに發揮されて居り匪團の皇軍を畏怖すること洵に想像以上で、進んで敵對行動に出づるが如きことは、殆んどないと言つてよい、それにも拘らず、討伐の實蹟か、豫期する以上に擧がらぬと言ふのは何故であるか、之れを專門的に研究すればいづれ相當に理由付けられるものがあるであらうが、結局、歸着するところは、討伐地に於ける地理的關係に依る事が第一がある、多年匪賊的に訓練されて出沒變幻自在、普通人とは思へぬ程に敏速な彼等の行動之れに伴ふ正面衝突を避けてただ其の虛を衝かんことにのみ腐心する一種の無抵抗主義要するに野性そのままの彼等の特質が近代的戰術を以てしても精銳無比な兵器を以てしても尙は且つ容易にこれを剿滅する事の出來ぬのが第二である然かも之れに加ふるに、彼等が平素その蟠居する地方々々に、扶殖してゐる一種の潛勢力は、相當に侮るべからざるものがあり、滿洲國兵或は警察隊員等に比し、勢威德望ともに却つて優り、匪賊が英雄的存在として地方民に信頼されてゐるが如き事情もあるがために情報連絡等に有利な狀態にあること、隨つて討伐に當り、皇軍並に滿洲國軍の苦心を要するところ夥しいものがあることこれ即ちその第三である

□

一方懷柔政策如何といふに、歸順工作については日滿兩國軍隊によつて實際に試みられたのは滿洲事變後の短日月であるから歷史も淺いし隨つてその成績の擧がらぬのも尤もではあるが、從來の歸順工作そのものについて見るに、過渡期にあつて已むを得なかつた事であらうとは言へ、これまた概ね失敗に終つてゐる、之れが原因を檢討して見ると其の手段方法に無理があり、根本の方策を誤まつてゐたものと思はれるのである、即ち匪賊に對する歸順並に宣撫工作の根本方針が、恩威並行にあることは、過去に於てもまた將來に於ても、凡そ變りはない筈である、ただ恩威並行所謂右手に劍、左手に金を持つて臨むにしたところで、ただ單にそれだけでは、決して効果の擧がるものではない、何となれば、彼等を概稱して「匪賊」と言ふものの今日迄實際に歸順工作を唱へて、これに働きかけ、幾度か失敗して來た相手は、「馬賊」と通稱される滿洲特有の土匪であり、兵匪または共匪とはその性質を異にした特長を有し、團結力に富み、時としては天人倶に憎むべき暴虐的行爲に出づる事あるにしても、全體的には鄕土的風格と、仁俠的の氣慨を持して居り、市井の鼠賊狗盜の類とは斷然別であると言ふ衿誇を有してゐる、彼等間に於ける規律、道德、信義は斯くの如き自尊心を持つに足るだけの資格を備へてゐるのである、これに對する吾々の認識が充分でなく、武士道的に取扱つてやらなかつた點に從來の失敗が基因すると思ふのである

首都警察廳 管內出生死亡者數

首都警察廳衞生科調査に依る九月末現在の出生死亡を觀るに出生男子二〇五名女子一四九名で合計三五四名に對し先月八月末現在に比較すると男子は八月末二一二名で先月より七名少なく女子一八九名に對し四〇名の減少である因に之れを署轄別に觀るに大經路男子併せ一〇九名で次が萬寶山の七二名、四道街の六三名である其他六署で平均二十二名の出生でこれを一日の平均にすると一日一二名弱の出生率を示してゐる因に死亡率を觀るに九月末現在は男子一二一名で女六八名合計一八九名の死亡で先月八月末現在に比較すると男子一七名、女子一七名合計三四名の減少である一日平均の死亡率は六名強にて最も多き死亡年齡は男子は小兒の三一名、女子は二十五才前後が多く一七名で之等の死亡病源を示せば左の如くである

病名	男子	女子
老病	一六	一三
哮嗽病	一〇	六
[illegible]	九	—

傷寒病	一〇	—
疫病	四〇	二七
腹病	一三	一
腦病	一	一
風病及中風病	二二	—
傷病	六	二
其他	一二	九
合計	一二一	六九

奉天省主要都市人口

【奉天國通】奉天省公署調査による九月末日現在の奉天省管下主要都市の人口左の如し

奉天市三九八、五三四△營口市一二八、五一二△安東市九四、六七二△遼陽縣城四九、九六四△鐵嶺四八、八六九△通遼四二、〇一八△遼源三一、〇七四△撫順三〇、三三八△鳳城二一、九五二△西安二一、六八一△開原二一、五五一△東豐縣新立屯二八、七一六△海龍縣城二〇、四三七△山城鎭二九、一〇三△朝陽鎭二二、七三九△西豐鎭城二八、七四一△義縣城二六、八〇三△通化二五、六六五△北鎭二四、一九七△法庫二三、二八四△綏中一七、四七九△開通一七、四四一△黑山一七、一九七△蓋原一七、三〇〇△遼陽縣劉二堡一六、六二〇△梨樹縣城一八、六四〇△四平街一八、六二三△海城縣牛莊一八、五七〇△昌圖縣城一八、四二八△興京一八、〇三二△金川一三、六九二△撫松一三、一九九△安圖一二、四九七△北安堡一〇、九九九△海城縣騰鰲堡一〇、八二九△輝南縣城九、八七四△興城九、二五三△遼中八、九六四△清源八、四八五△彰武八、〇一五△臨江一五、八四四△本溪一五、六一九△昌圖縣八面城一四、九七八△懷德縣公主嶺一四、六〇二△岫巖縣城一四、五八四△柳河同七、六二四△莊河七、五九〇△亮 七、二八八△桓仁六、八八三△錦西六、四九八△突泉六、二四九△康平六、〇一八△復五、九四九△瞻榆五、六九七△鎭東四八四〇△双山四、三三一△長白二五五七△安廣三、二五三△臺安三、〇一三△盤山二、六三五△輯安二、五三〇

海の外から

ミイラの呪ひ エヂプト學者の急逝

米國の有名なエヂプト學者アルバート、リスゴー博士はボストンで此の間僅か、一週間位の病狀で急逝した、彼はミイラ埋藏墓地を開く時に前後十五、六回程立ち合つたためミイラの呪ひであると米人限に噂を捲き起してゐる

巴里ッ娘の猛演

今秋、カヌー競漕大會フランスに於ける本年最後の水遊び競技―女子カヌー競爭は愈よ十月一日、巴里大プールで開催される、當日使用のカヌーはカヌ型ボートを代用巴里ッ娘達が纖弱い腕に櫂を操り優勝を爭ふ競技を演ずるといふ大呼物である

北鐵東部線 大討匪從軍記（一）
＝國通關口特派員＝

「ガソリンだ!」「マッチだ!」やがて炎々天に冲する火焔は匪團の山塞をなめ盡す、寒さを衝いて飢を忍んで激戰數次の後匪團を擊滅した皇軍將士は炎々とあがる焔に心からの快哉を叫して再び勇躍第二の討伐が進められる、滿洲事變勃發以來星霜はめぐつて四歲、國民の腦裡から漸く忘れ去らんとする皇軍の勞苦は東洋平和確保の大旆の下に未だに續けられてゐる、各地に跋扈した職業匪は非を覺つて續々五色旗の下に馳せ降り、其數を減じたがソ聯の魔手に躍る共匪は未だに僻遠の地に散在し「一人は一人に傳へ一村は一村に傳ふ」の標語を掲げ、ボグラ方面よりの指令に執拗な騷亂を繰返し、東部滿洲の赤化に狂奔してゐる完全なる統制の下に彼等の赤色武裝地帶を刻々と擴大しつゝある、本年五月渡滿以來想を練り策を練り今日の至るのを待つた若山○團は空陸水の各部隊を隨へ去る十日より東滿各地の共匪擊滅を期す掉尾の大討匪行は敢行されてゐる、記者は東部線拔化より寧安に至り鏡泊湖一延密林地帶の討匪に從ふ谷部隊と共に幾度か砲煙を浴び彈雨をくゞり早くも迫る嚴寒に抗して決死二旬に亘る從軍を終つた

―地圖の上に赤靑の鉛筆は動く―

山岳重疊見るからに討匪の勞をしのばせる黑々とした地圖の上を趙尙志匪、九標匪、愛民匪等の文字を追つて赤靑の鉛筆は動くうず高く積まれた各種の情報を片脇に部隊長を圍む參謀の眼は一點を凝視して動かない―「斷」の一字部隊長の眉宇がかすかに動きて數刻に亘る緊張はほぐされる、寧安商務會に陣取つた谷部隊の參謀室に毎日見受けられる情景である、「一番苦心するのは矢張り情報の蒐集だね」と冒頭して谷部隊參謀は語を次ぐ

皇軍各地の討匪に匪團は恐れをなして四散し三人五人の小人數で彷徨して皇軍の討匪終了を待つて居るのだからね、この手腕へのない小人數を捕へる事に云ひ知れない苦心がある譯だ「見知らぬ人が二、三人部落を通過しました」こんな情報にも夜歩いて拂曉襲ふの匪賊戰法に基いて夜間行を起すのだが、訊ねてみれば土民であつたり、眠る眼も眠ずに深夜に降りる霜を冒し野を分け山を涉る夜行軍も敵と一戰の氣慨に燃えて苦しみも疲れも忘れて續けるが獲物を得ず空しく歸る慘めさ步調もにぶつて……まことに恥かしい次第だ……彼等馬賊が銃器彈藥を欲しがる事は想像以上である、殊に彈藥補給に至つては彼等が第一に困難を感じてゐるところで地方自衞團がしばしば匪襲を喰ふのは銃器彈藥が欲しいばつかりにだ頭目から借用してゐるのではなく自分の銃を持つてゐるものは却々珍重がられてゐるし勢力もあり掠奪品分配にも差があるのだ自分の銃を携帶して匪賊に投ずれば新古に拘らず一人前の配當を受けるが空手で入つたものは經歷、膽力、才智等に依つて二分の一人前から十分の六乃至八止り決して最初から一人の分け前を貰ふ譯には行かない、それから匪賊には匪賊同志の道德があり仁義がある逃亡、官憲との密通、指揮者の命令反抗、掠奪品を私する等に對しては彼等の制裁は凡て銃殺だ

敵を知る事は八九分の勝、匪賊を知り盡した參謀の双肩に限りなき力強さを感じて匪賊の蠢動なき樂土滿洲をまぶたの裏に浮べて記者は席を辭した

軍備の平等原則 先づこれを決定

噸數問題の附議はその後

日本代表部の意向

【ロンドン卅日發國通】英米代表部は日本側提示の抽象的原則のみでは英米間に充分討議する基礎とするには不充分なりとし一層突込んだ實質的の内容提示を要請せんとの報道に對し日本代表部は左の如く言明して居る

日本代表部は英米に對し軍縮案の基礎原則を提示したから今は招請國を代表するマクドナルド氏が會商發展の活動を開始すべき時であり同代表が日米代表と交々折衝を圖り會議の進展を圖るであらう、常に云ふ如く平等原則の承認無くば噸數問題の討議開始は絶對に反對である、英米代表が軍縮案の礎石たるべき共通保有量最高限度提案の妥當性を公平無私世界平和を企圖する見地で認むる時のみ會商展開を期待する

米笛ふけど 英は踊らず

現比率廢棄に日英提携か

【ロンドン卅日發國通】アメリカ代表は廿九日の對英會談後日本案は豫備會商を困難にするものだと强調して居るがイギリス側は米國側が期待した程日本案に反對して居らず日本案に對して英米共同戰線を張つての反對は實現されず却つて現行比率廢棄に就いては日英提携が豫想され米國代表部はイギリス側よりうつちやりを喰つた形である、廿九日の會議で日本側は軍縮案の全貌を示して居ないから次回會談では何等か提案するものと觀られる

續いて行はれる松平、デヴィス兩代表の私的懇談が局面打開にどの程度まで貢する處あるかは注目されて居る

駐伊劉支那公使 支那大使交換で昇格

【南京卅一日發國通】イタリー支那兩國公使館昇格に伴ふ大使交換に就き、現イタリー駐在公使劉文島氏を昇格大使に任命（三十日附）正式に發表された

政治工作に入つた 三國豫備會商

松平デヴィス懇談注目さる

【ロンドン卅日發國通】日本代表部は三十日迄に英米兩國に對し各々二回宛會談を遂げたが日本代表部の主張は容易に兩國の容るゝ處とならず此儘正面を切つて進むに於ては對立は愈々際立つて來るのみなので遂に松平、サイモン、デヴィス等の頭株が袴を脫いだ私的會談によつて局面を打開せんとするに至つた、豫備會談は斯くて第二段に入つたものである、此政治工作の第一段として行はれた三十日午後の松平、サイモン私的會談に於てサイモン外相よりアメリカ代表部側の强硬反對意見を通じ相當打解けた話合ひが行はれたことは事實であるが更に三十一日午後四時半から

小林司令官 中將に進級

海軍定期進級異動

【東京國通】海軍定期進級異動は過般の進級將官會議で決定、上奏御裁可を經たので來る十一月十五日附を以て正式に發令される筈で、內主なるものは左の如くである

聯合艦隊司令長官兼第一艦隊司令長官 海軍大將 末次信正

補軍事參議官 補橫須賀鎭守府司令長官 海軍大將 永野修身

補軍事參議官 第二艦隊司令長官 海軍中將 高橋三吉

補聯合艦隊司令長官兼第一艦隊司令長官 佐世保鎭守府司令長官 海軍中將 米內光政

補第二艦隊司令長官 第三艦隊司令長官 海軍中將 今村信次郎

補佐世保鎭守府司令長官 舞鶴要港部司令官

補第三艦隊司令長官 軍令部出仕 海軍中將 百武源吾

補舞鶴要港部司令官 軍令部第三部長 海軍中將 松下元

補駐滿海軍部司令官 海軍中將（新）津田靜枝

海軍中將（新）小林省三郎

補鎭海要港部司令官 第一戰隊司令官 海軍中將（新）大野寛

補馬公要港部司令官 第七戰隊司令官 海軍少將 濱田吉次郎

補旅順要港部司令官 橫須賀警備戰隊司令官 海軍少將 山口長南

補大湊要港部司令官 海軍砲術學校長 海軍少將 原敬太郎

補第六戰隊司令官 軍令部出仕 海軍少將 日比野正治

補第一戰隊司令官 吳鎭守府參謀長 海軍少將 佐山德太郎

補第八戰隊司令官 海軍水雷學校長 海軍少將 日暮豐年

補第二水雷戰隊司令官 佐世保鎭守府參謀長 海軍少將 片桐英吉

補第二航空戰隊司令官 橫須賀海軍航空隊司令 海軍少將 大西次郎

補吳警備戰隊司令官 橫須賀鎭守府人事部長 海軍少將 眞崎勝次

補橫須賀警備戰隊司令官 佐世保海兵團長 海軍少將 和田專三

補佐世保警備戰隊司令官 軍令部第五課長 海軍少將（新）下村正助

補第五水雷戰隊司令官 潛水學校長 海軍少將（新）野村直邦

補第二潛水戰隊司令官 扶桑艦長 海軍少將（新）荒木貞亮

補上海特別陸戰隊司令官 第三艦隊參謀長 海軍少將（新）高須四郎

補軍令部第三部長 大湊要港部司令官 海軍少將 井上肇治

補艦政本部第六部長

義人村上氏に 滿洲國政府 三千圓贈呈

「日本人此處に在り」と絕叫し、無事人質を救出した義人村上氏に對し、曩に皇帝陛下には特にその功をよみせられ勳五位景雲章を賜つたが更に滿洲國政府に於ては、功勞金として金三千圓を贈ることになつた

滿洲國稅關吏の服制を統一

滿洲國稅官吏の服裝は從來服制がなかつた爲まちまちで、識別に困難で官民共に不便を感じてゐたが、十一月一日から同服制が公布されることになり、爾後肩章付の一樣の制服を着用し、一見して稅關吏であることが解るやう改められた

優秀縣參事官を 新省公署に拔擢

全般的參事官の異動は行はぬ

來る十二月一日を期して實施される新省制度實施に伴ふ人事異動に關しては、人事處を始め民政部に於て銳意考究中で未だ最終決定を見るには至つて居ないが特に人材登用の意味に於て、全滿九十一名の縣參事官の中から優秀者を十數名新省公署官吏に拔擢する事となり、目下民政部で愼重これが人選を行つてゐる、尙縣參事官は其の性質上出來る丈け深く縣政に通曉する必要があるため原則として異動せしめない事になつて居るから從つて今回の省公署轉出に伴ふ人事は單に補充の程度にとどめ全般的縣參事官の入れ換へ等は行はれない模樣である

國幣對金票安定と 關稅の改正

滿洲國の工業進展策につき 工業會が大使へ請願

豐富な原料資源と低廉な勞力とによつて工業進出に有利な條件を保有する滿洲國では最近農業國滿洲から工業國滿洲へ經濟建設方針を確立し工業立國に躍進せんとしつゝあるが、近時在滿工業家中に滿洲國工業企業に不安を抱きその經營を斷念するもの漸增の傾向があり、工業都市奉天の如きは工場建築中のもの、工事未着手のもの併せて六十三工場あつたものが最近に至り四十七工場に激減し近々一ヶ月間中に實に十六工場の經營中絶を招來せるはこの間の消息を物語るものと滿洲工業發展のために憂慮されてゐる、かゝる在滿工業家の工業投資における不安を一掃するため、さきに奉天に設立された滿洲國工業會では同會代表山本盛世氏の名をもつて去る二十六日菱刈大使に對し請願するところあつたが、それによれば

一、可及的速かなる關稅改正の實施

二、內國賦課稅の標準稅率の決定

三、滿洲國貨幣制度の確立、國幣と金票との比較の安定

四、關東州內製品に對する滿洲國內製品（內國稅賦課）の不利條件の撤廢

等を要求してゐる、なほ同會では近く輸入稅內國賦課稅等の具體的調査を行ひ再び大使に請願することゝなつてゐる

アリゾナ暴徒 日本人襲擊

（等は行はれない模樣である）

【フイニックス『アリゾナ州』卅日發國通】ソールトリバー平原に於る日本人農民排斥運動は依然熄まず廿九日午後十一時に至り暴徒の一團は又復自動車で日本人農家に來襲し瀧口及び下田兩氏の農園の灌漑溝並に住宅に爆彈を投じた幸ひに爆彈が家屋を遠く離れた所で炸裂した爲瀧口方では損傷は無かつたが、下田方では窓硝子を破壞され就寢中の子供一人が輕傷を負つた、翌卅日兩氏はアリゾナ州日本人會を通じ州警察當局に報告嚴重取締方を要求した、ソールトリバー平原在留日本人は度重なる計畫的暴行に極度に激昂して居る

戰區清理委員會

行政院を通過大綱決る

【北平卅一日發國通】行政院駐平政務整理委員會戰區清理委員會は愈よ十一月一日午前十時當地外交大樓に於て成立會を擧行直ちに第一次委員大會を開き辦事細則に就て討議する事となつた、辦事細則に就ては李擇一起草に當り戰區保安隊の問題に就ては朱式勤がこれを處理する事になつて居り同會工作の期間は六ヶ月、必要に應じて延期出來る事になつて居る、行政院を通過した同會組合大綱は左の如し

第一條 行政院駐平政務整理委員會戰區各項善後處置のため臨時に戰區清理委員會を設け左の事項を辦理す

（イ）戰區接收未定事項

（ロ）戰區地方の外交々涉事項

（ハ）戰區保安隊及び地方警察の整理事項

（ニ）戰區各縣情勢改善事項

（ホ）戰區地方治安の整理事項

（ヘ）戰區地方の交通連絡事項

（ト）調査及び各特殊事項の處理

第二條 本委員會の內務の進行上各項の整理並に改善辦法を定め中央の批准を經て之れを實施するを得

第三條 本委員會に委員七名を置き政整會之れを指名し內三名を常務委員となす

第六條 本會工作期間は六ヶ月となす

第八條 本委員組織大綱は行政委員批准公布の日よりこれを施行す

ユ大使外相訪問 引續き北鐵問題折衝

【東京國通】駐日ソ聯大使ユレニエフ氏は卅一日午前十時十五分外務省に廣田外相を訪問し北鐵讓渡交涉に關する前日の折衝に於て意見の一致を見るに至らなかつた點につき更に折衝を續けた

增稅案に 株式市場萎縮

【東京國通】株式市場は藤井藏相は確乎たる對策を有せず增稅等も發意に出たとは受けられぬ故豫算省議で增稅額が五千萬圓となるか一億となるかは豫斷を許さぬ、超過所得へ增稅する事は各會社の配當を牽制し高配會社は增配を遠慮するものと觀られるから投資の妙味を減殺する、現內閣の今後の財政經濟策は以上の理由より極度に萎縮狀態である、今後餘程の樂觀材料出現せずば市況の活潑なる恢復は至難で年末を控へ成行き憂慮されて居る

大藏增稅案內容

【東京卅一日發國通】昭和十年度豫算編成上歲入缺陷を補塡するため增稅は必至となつたが、大藏當局の增稅案は大綱左の如き模樣である

事業部門を關聯性、類似性により數種に區別し昭和五六年收益狀況を精密に調査、各部門每に一種の平均利潤率を算出しこれを基準に昭和九年度の收益狀況を比較して其差に對し最低免稅點と照し合せて適當率を課稅せんとするものであるが、個別的の事情も充分斟酌され增資其他の方法による負擔輕減や脫稅を避る場合も考慮して基準を定め、增資々本に就ては一定の利潤以上の收益を認めぬ方法をとる模樣である尙ほ此課稅で事業會社の發展擴大を阻害する事も無いとは言へぬので技術上困難が伴ひ當局でも愼重の態度を持してゐる

偶語

けふ十一月一日は諸懸案の一齊實施デーともいつた形だ大きいところでは新京放送局の百キロ放送、滿鮮列車のダイヤ大改正がある▼百キロ放送は昨日本欄で書いた通り、鐵道の運轉はスピード時代にふさはしく、從來の「はと」に加はつて「ひかり」の新京進出とゝもに誠に意義が深い▼小さいところでは東一條の鈴蘭燈、白菊小學校の假開校、それに伴ふ通學バス運轉、更に市內バスが新都の中心街大同大街から同方面に延長されるのも、いよいよけふからで、かう數へて見ると邊がないばかり▼一々こゝに檢討するまでもなく、それは躍進また躍進の交響樂であり、延びゆく國都の姿を如實に物語る種々相である、なんと吾々に取つては愉快なことではないか▼かうして吾等の國都新京は日一日時々刻々と果てしなく移りかはつてゆく、今に見ろ、こゝ二、三年もすれば昔の面影はてんで無くなつて終ふであらう▼新京忠靈塔がいよいよ近く竣工する滿洲事變いらい御國のために雄々しくも人柱と散つた二千八百有余の靈がこゝに眠るかと思へば、誰しも獨りでに頭が下らう▼この尊い忠靈塔が吾等の膝下に出來たことは吾等に取つてこの上ない幸であり、今後一層忠靈に對する奉仕を忘れてはならないことを痛感する

一日附公布の 鑛業監督署官制その他

滿洲國政府では一日附で左記「鑛業監督署官制」「衛生技術廠官制」「郵政管理局官制中改正の件」「郵局官制中改正の件」を公布する

鑛業監督署官制

鑛業法の施行に伴ひ、省公署實業廳鑛業科の所管事務を統括して鑛業監督署と爲し鑛業行政の中央集權を計り一層效果の有效適切ならむ爲制定されたので同時に現行の省公署所管事項中より鑛山に關する事項は勅令を以て除かれた

第一條 鑛業監督署は實業部大臣の管理に屬し鑛業に關する職務を掌る

第二條 鑛業監督署を通して左の職員を置く

署長 四人 薦任
理事官 四人 薦任
技正 四人 薦任
事務官 四人 薦任
技佐 六人 薦任
屬官 十六人 委任
技士 三十人 委任

第三條 署長は實業部大臣の指揮監督を承け署務を掌理し所屬職員を指揮監督す

第四條 理事官は署長の命を承け事務を掌る

第五條 技正は署長の命を承け技術を掌る

第六條 事務官は上司の命を承け事務を掌る

第七條 技佐は上司の命を承け技術を掌る

第八條 各鑛業監督署に鑛業監督官を置き理事官、技正事務官及技佐を以て之に充つ

一 鑛業監督官は上司の命を承け鑛業警察に關する事務を掌る

第九條 屬官は上司の指揮を承け事務に從事す

第十條 技士は上司の指揮を承け技術に從事す

第十一條 各鑛業監督署に鑛業監督官補を置き屬官及技士を以て之に充つ

鑛業監督官補は上司の指揮を承け鑛業警察に關する事務に從事す

第十二條 鑛業監督署の名稱位置及管轄區域は實業部大臣之を定む

附則

本令は公布の日より之を施行す

實業部では鑛業監督署官制第十二條の規定に依り鑛業監督署の名稱、位置、及管轄區域を左の通り定めた

奉天鑛業監督署（奉天省奉天市）

奉天市、瀋陽縣、遼陽縣、鐵嶺縣、營口縣、錦縣、安東縣、昌圖縣、海城縣、蓋平縣、新民縣、海龍縣、復縣、兆南縣、開原縣、東豐縣、西豐縣、西安縣、義縣、興城縣、綏中縣、鳳城縣、撫順縣、本溪縣、遼源縣、梨樹縣、懷德縣、黑山縣、北鎭縣、興京縣、莊河縣、法庫縣、遼中縣、台安縣、彰武縣、盤山縣、錦西縣、通化縣、桓仁縣、輯安縣、輝南縣、柳河縣、清原縣、康平縣、光安縣、寬甸縣、通遼縣、[illegible]縣、金川縣、安廣縣、開通縣、雙山縣、突泉縣、鎭東縣、瞻楡縣、阜新縣

新京鑛業監督署（吉林省新京特別市）

新京特別市、哈爾濱特別市、吉林、永吉縣、長春縣、扶餘縣、雙城縣、延吉縣、寧安縣、德惠縣、磐石縣、賓縣、楡樹縣、延壽縣、琿春縣、佐蘭縣、汪淸縣、伊通縣、農安縣、長嶺縣、舒蘭縣、雙陽縣、五常縣、阿城縣、珠河縣、葦河縣、和龍縣、敦化縣、樺川縣、富錦縣、方正縣、額穆縣、撫遠縣、東寧縣、穆稜縣、寶淸縣、密山縣、樺甸縣、濛江縣、同江縣、饒河縣、虎林縣、勃利縣、乾安縣、長白縣、臨江縣、安圖縣、撫松縣、北滿特別區區域中哈爾濱以東區域及以南區域

齊齊哈爾鑛業監督署（黑龍江省齊齊哈爾）

齊齊哈爾、龍江縣、拜泉縣、克山縣、綏化縣、呼蘭縣、海倫縣、巴彥縣、肇東縣、肇州縣、訥河縣、泰來縣、蘭西縣、木蘭縣、望奎縣、愛琿縣、寶岡縣、安達縣、慶城縣、林甸縣、湯原縣、通河縣、通北縣、明水縣、依安縣、大賚縣、鐵驪縣、羅北縣、漠河縣、佛山縣、景星縣、龍鎭縣、綏稜縣、綏濱縣、烏雲縣、奇克縣、鷗浦縣、呼瑪縣、甘南縣、泰康縣、克東縣、富裕縣、鐵驪縣、東興縣、孫河縣、鳳山縣、德都縣、北滿特別區區域中哈爾濱以西區域

承德鑛業監督署（熱河省承德）

承德縣、灤平縣、豐寧縣、隆化、圍場、赤峰、建平、綏東、朝陽、凌源、凌南、平泉、寧城、青龍

備考 鑛業の區域が二以上の鑛業監督署の管轄區域に跨がるとき又は鑛業監督署の管轄區域の境界明確ならざる爲管轄に付疑を生じたるときは實業部大臣管轄鑛業監督署を指定するものとす

附則

本令は公布の日より之を施行す

衛生技術廠官制

從來衛生材料に關する技術を掌る機關としてハルビンに東北防疫所を置き傳染病豫防材料の製造をなし來りしも現下我國の衛生狀態よりして斯る機關にては不完全を免れず、コレラ、ペスト等の傳染病流行に際しては凡ゆる用器並に藥材を臨時購入するの止むなき狀態にあり、玆に於て政府は其の對策として一方防疫從事者を訓練し、漢方醫の短期補習教育を行ひ、病源の檢索に努める等傳染病に備へ、他方必要に應じて飲料水、飲食物、飲食物器具、藥品及賣藥等衛生に關する諸種の試驗を行ひ、尙進みて醫療施設なき農村に對する常備藥品の製造配給方を考慮し、以て公衆衛生の向上を計る爲本官制を制定した

第一條 衛生技術廠は民政部大臣の管理に屬し左の事項を掌る

一 傳染病其の他病源の檢索及痘苗、血淸其の他豫防治療材料の製造檢査並に格納に關する事項

二 傳染病豫防方法の講習に關する事項

三 衛生上試驗に關する事項

第二條 衛生技術廠は之を新京に置く

第三條 衛生技術廠に左の職員を置く

廠長 一人 簡任
技正 一人 薦任
事務官 一人 薦任
技佐 二人 薦任
屬官 二人 委任
技士 五人 委任

第四條 廠長は民政部大臣の指揮監督を承け廠務を掌理し所屬職員を指揮監督し其の進退賞罰に關し民政部大臣に具狀す

第五條 技正は廠長の命を承け技術を掌る

事務官は廠長の命を承け事務を掌る

技佐は上官の命を承け技術を掌る

屬官は上官の命を承け事務に從事す

技士は上官の命を承け技術に從事す

第六條 民政部大臣は必要と認むる地に衛生技術分廠を置くことを得分廠長は廠長の指揮監督を承け分廠務を掌理し所屬職員を指揮監督す

第七條 衛生技術廠及分廠の事務分掌は民政部大臣之を定む

附則

本令は公布の日より之を施行す

郵政管理局官制中改正の件

從來郵政管理局に於て現業事務をも併掌し來りたる所管理事務を主体とする管理局に於て斯の如き制を採るは處務上各種の支障あるを以て特に止むを得ざる鐵道郵便關係を殘し他は郵局に移管せしむる爲郵政管理局官制を改正し又輻輳せる郵局管理事務を適切に處理せしむる爲新に新京郵政管理局を增設する事にした

一 第一條第三項中「郵便、小包郵便、郵便爲替及郵便貯金の現業事務」を「郵便現業事務の一部」に改む

二 第二條中「奉天」の前に「新京」を加ふ

三 第三條 各郵政管理局を通じて左の職員を置く

局長 三人 簡任
副局長 三人 薦任
理事官 九人 薦任
事務官 三十一人 薦任
技佐 五人 薦任
屬官 二百二十五人 委任
技士 十二人 委任

附則

本令は公布の日より之を施行す

郵局官制中改正の件

一 第五條 各郵局を通して左の職員を置く

事務官 十六人 薦任
屬官 二百五十六人 委任
書記 七十四人 委任

二 第九條中「書記及書記佐」を「屬官及書記」に改む

附則

本令は公布の日より之を施行す

故勇士達を祠る新京忠靈塔竣工す
二十一日竣工式を盛大に 式次第その他決る

滿洲事變以來滿洲國建設の人柱と散つた吾等が故勇士並に殉職者の英靈を永へに祭る新京忠靈塔は今春起工いらい鋭意工を急いだ結果、いよいよ竣工、來る二十一日午後四時から同境内で官民多數參列の下に竣工式に引續き納骨式を盛大に擧行することになつた納骨される分骨(遺髮、遺品を含む)は二千八百有餘で來る廿日までに整理のうへ西本願寺に安置、特別の者を除いて九十六体づゝを一箱に入れることになつてゐるが、同日午後八時から同寺で佛式により回向し、同夜は官民にて御通夜をなすはずである、而して當日は竣工式とゝもに同四時故武藤元帥を先頭に陸軍、海軍、大使館、關東廳、滿鐵關係の順序で各所屬機關の人々に護られ西本願寺を出發沿道在京軍隊並に各中等學校生徒、一般市民ら堵列のうちを中央通を經て忠靈塔へ、哀しき喇叭の吹奏裡に粛々として式場に着、竣工式は除幕を兼ねなるべく簡潔に行はれるが式後引續き神式により式典を開始し行列の順序で逐次忠靈塔内に分骨を安置し、この間燈火を滅し莊嚴極まる裡に納骨を終ると一齊に篝火および照明燈を點じこゝに式典を終了することになる、なほ當日は遺族を始め在京各機關は勿論在滿各部隊、旅順要塞司令部、關東廳、滿鐵本社、鐵路總局、滿洲各地時局後援會、郷軍、青訓、日本側男女中等學校、婦人團体、朝鮮人會の各代表、在滿基會寄贈者、滿洲國要人ら多數參列し、佛式には在京各佛教團、神式には全滿神職ら聚つて奉仕するはずである

紅一點 川添夫人

納骨される分骨は別項の通り二千八百余体であるが、これは未竣工のハルビン、チチハル、承德の忠靈塔に納められる人々もまじり中に紅一點、范家屯で戰死した川添巡査夫人の分骨もあり生殘れるものにとつて同夜は國の爲め斃れた人々を偲び滿洲事變の意義を再認識するこよなきよすがである

長春縣保甲青年訓練所第一期卒業生日本視察

長春縣保甲青年訓練所第一期卒業生十名は同縣參事官竹内節雄氏に引率され十一月一日新京發日本見學に向ふ事となつた、一行は東京、大阪、京都、名古屋各地を見學し廿五日頃歸國する豫定である

日本行政視察團赴日

既報の如く各縣長局長三十名よりなる日本行政視察團は民政部行政科長白恒興氏に引率され一日正午新京發大連經由日本に向ふ事となつた、一行は門司上陸後京都、東京に於ける行政狀態を視察し十日より十三日まで群馬縣下で擧行される特別大演習を拜觀、二十日まで再び東京に於て各省府縣、市役所、區役所につき詳細視察を行ひ西下、歸途は朝鮮經由三十日午前七時三十分歸京の豫定である

公學校、消費組合工學院記念日

十一月一日は新京公學校第二十二回、滿鐵社員消費組合新京支部第十五回、新京工學院第一回のそれぞれ創立記念日に相當する、新京公學校では午前九時から講堂で記念式を擧げた後は臨時休業、消費組合は當日臨時休業、新京工學院では別に記念式は擧げず臨時休業になつてゐる

アジア第三編成車完成 來年一月迄に四ケ列車出來

【大連國通】超特急アジアの第三編成列車は廿九日沙河口鐵道工場に於て完成直ちに試運轉を行つたが明年一月に出來るものを合せて都合四ケ列車分が出來上ることゝなつた

大谷法主昨夕離京

さる二十九日來京した東本願寺大谷光暢法主夫妻一行は滯京三日皇帝陛下拜謁、戰跡視察、弔問及び市民に對する祖訓の布敎の大任を終へ三十一日午後四時三十分發列車で名殘り惜まれて奉天に向ひ出發した、驛頭には小林駐滿海軍部司令官、石丸侍從武官、吉澤總領事夫妻、林出書記官、品川居留民會長夫妻、その他信徒、高女生約三百名の見送があつた

夜の稅關通過に安東の特別サービス
南行は新安州までに檢査

【安東國通】スピードアップはよいが睡眠中を叩き起されての稅關檢査はやり切れないと心配して居るだらう旅客の爲めに新義州稅關は左の如き特別サービスの用意を整へて居る、即ち

南行の第八列車は安東に午前四時五十分着同五時二十分發となつてゐるので本列車に限り託送手荷物は安東驛員立會の上停車時間中檢査を行ひ、これには旅客の立會ふ必要はない、又車內持込品に對しては特別の係員數名が安東驛から乘車して旅客のそろそろ眼覺める南市驛より檢査にかゝつて新安州迄に終了する

特急あじあ號發車前お祓式 音樂を奏て祝福

特急あじあ號晴れの正式運轉初日、この記念すべき一日午前十時同列車發車前井上神官が發車ホームに停車してゐる傍で鐵道關係者參列裡に祓式祝詞奏上し祝盃を擧げスタートを切る、發車の際はラウドスピーカーで『螢の光』のレコードを放送處女列車の榮ある前途を祝福するはず

放送事業の分離獨立論擡頭

【大連國通】新京放送局の百キロ放送並に聽取料の徴收を機に現在電々會社の一部事業として行はれてゐる放送課を廢してその持つ重大使命と放送事業の本質に鑑みこれを全然分離して一つの社團法人とすべしとの論が行はれて居る即ち現在の電々會社に於る放送事業は大連、奉天、新京、ハルビンの四局が夫々放送を行ひこれを本社の放送課で統一してゐる形であるが事實は右に反し放送課に專門家の存在なきため實權を文書課で握つてゐる有樣なので夫々專門家を有してゐない各放送局では事務の澁滯並に打合せの圓滿を缺く場合が多いので何も不滿を洩らして居る、右につき某放送當局者は語る

放送事業そのものゝ實際上から見てもこれは營利會社に委すべきでなく適當な指導監督の下に一つの非營利會社を組織し社會事業としてもつと有意義ならしめる必要があるばかりでなく各局がうまく連絡統制をとらうとしても現狀では到底これが望めないので何れは何等かの形に於て改革されるものと信じて居ます云々

百キロ放送記念式擧行

東洋一を誇る新京放送局の百キロ放送は一日から開始されるが、この歷史的大電力放送を記念するため新京放送局では一日午前十一時から寬城子放送所において次の如く百キロ放送開局式を擧行する

一、開式の辭
二、總裁挨拶
三、放送開始 正十一時半
四、來賓祝辭
五、祝電披露
六、閉式の辭
七、講宴

十一月

立冬 八日
小雪 廿三日
新月 七日
上弦 十[illegible]日
滿月 廿一日
下弦 廿九日

紅葉もせず枯死したやうになつて吹き落された、落葉が强い風に吹きまくられて街頭に亂舞する、素裸になつたポプラは諸手を上にあげて哀れをとゞめる滿洲の秋は初冬の訪れ、これにひきかへ日本內地は今ごろ觀楓の秋を壽ぐ太鼓が鎭守の森からひゞく……澄みきつた秋日和に樂しい諸行事が行はれるのもこれからである

今月の行事

一日 新嘗賀出▲正倉院御物曝
二日 去來忌
三日 明治節▲明治神宮祭▲菊花大會(日比谷、天王寺、名古屋金城)
四日 淺間神社祭
六日 極樂寺十夜講(京都)
八日 ふいご祭▲火焚祭(伏見稻荷其他)
十日 酉の市
十一日 世界大戰平和克復記念日▲出雲大社神社祭
中旬 觀菊御宴
十九日 一茶忌
廿一日 大師講▲報恩講
廿三日 新嘗祭
三十日 滿期兵除隊

改正された新ダイヤ
新京驛發着時間表

南滿線、京圖線、北鐵南部線一齊にいよいよ一日からダイヤが改正され鐵道交通界の寵兒あじあ號を始め、ひかり號がそれぞれ連京、京釜間を八時間半、二十七時間でぶつばしる驚異的スピードアップが開始される、新京驛發着主要列車時刻は次の通りである

當驛發列車時間表

線名	列車名	行先	新京	四平街	奉天	大連
京	二〇三	圖們	七、〇〇	(ソリ)九、四〇	(カト)一五、三〇	(メト)二一、四〇
社	ヒカリ	釜山	七、〇〇	八、四八	一一、一六	(サフ)二〇、四〇
社	三四	奉天	七、一〇	九、四一	一四、一五	
社	一五〇	四平街	八、〇〇	一一、〇三		
北	四	哈市	九、二〇			(哈市著)一四、五〇
京	二〇五	敦化	九、五四	(ソリ)一三、三六	(カト)一八、四〇	
社	アジア	大連	一〇、〇〇	一一、一五	一三、三八	一八、三〇
社	一二八	營口	一〇、一〇	一三、四一	一七、二〇	
北	ハト	哈市	一〇、四〇	一三、〇一	一六、三六	(哈市著)一九、二五
社	四二	四平街	一三、二一	一四、五〇		
社	三六	奉天	一三、四〇	一六、二二	二〇、四〇	
社	一五二	四平街	一四、三〇	一七、三〇		
京	二〇七	吉林	一四、三〇	(ソリ)一七、四〇		
社	二〇	大連	一六、〇〇	一八、三〇	二二、三〇	八、〇〇
社	一五四	四平街	一八、〇〇	二二、〇〇		
京	二〇一	清津	一八、三〇	(ソリ)二二、三四	(メト)九、二五	(清津著)一五、一〇
社	一六	大連	二〇、〇〇	二三、〇四	一、一五	八、三〇
社	二四	四平街	二〇、三〇	二三、〇〇		
社	二二	大連	二三、〇〇	一、〇三	六、一〇	一三、一五
社	三八	奉天	二三、〇〇	二、一〇	七、一〇	

當驛着列車時間表

線名	列車名	發驛	新京	四平街	奉天	大連
社	一九	大連	六、三〇	三、三三	二一、二四	[illegible]
社	三七	奉天	七、三五	四、一〇	二二、一〇	
社	四一	四平街	八、二五	五、五〇		
社	一五	大連	八、五〇	六、四四	一一、三〇	二〇、〇〇
京	二〇八	吉林	九、〇			
社	一四七	四平街	一〇、二四	七、一〇		
社	一四三	四平街	一一、一〇	八、三〇		
京	二〇二	清津	一一、三三	(ソリ)八、四一	(メト)二三、〇〇	(清津發)一八、一〇
社	一四九	四平街	一三、三五	七、三〇		
社	二一	大連	一四、一〇	一一、一六	七、〇五	二一、〇〇
北	三	哈市	一五、〇〇	(哈市發)七、三五		
京	二〇六	敦化	一五、一〇	(ソリ)一三、一七	(敦化發)七、〇〇	
社	三三	奉天	一六、〇〇	一三、四七	九、三〇	
社	アジア	大連	一七、三〇	一六、〇七	一三、三二	九、〇〇
北	二七	營口	一八、三五	一五、三六	一一、二五	
北	一一	哈市	一九、三〇	(哈市發)一七、一〇	一〇、一五	
社	一五一	四平街	二〇、〇五	一七、一〇		
社	ヒカリ	釜山	二一、〇〇	一九、一四	一六、三〇	(サフ)一九、二〇
京	二〇四	圖們	二一、一六	(ソリ)一八、二三	(ナト)一三、三五	(メト)六、三〇
社	三五	奉天	二三、三〇	一八、四五	一四、三〇	
社	ハト	大連	二三、五〇	二〇、四四	一八、〇〇	一一、〇〇

道場開き 中村彦太氏

滿洲國禁衛隊の稽古をつけて居る明創神致流劍士中村彦太氏は來る十一月三日の明治の佳節をトし大緯路二條胡同で道場開きを行ふ事となつた

哈市のペスト容疑死亡者陰性と決定

【ハルビン國通】卅日午前四時半疑似ペストで死亡した滿人は陰性ペストと判明したので恐怖の絕頂にあつた五十萬市民も漸くこれで安堵の胸を撫で下した

第二期の當選電話本月下旬架設
一日から三百圓受付開始

新京中央電話局では本年度架設第二期當選者の自働交換設備を急いでゐたが後四、五日をもつてほとんど完成するので豫定通り十一月二十日ごろから電話機の架設工事に着手し十二月二十日ごろには通話を開始する運ひとなつた、電話局は第二期當選に際して一應返還した三百圓を一日から十日まで受付をすることゝなつたので加入者はかねて二十圓を納付し加入登記した時の領收證を持參十日までに納付されたいと、なほ移轉その他によつて機械の設置場所を變更したのはその際屆出ないと移轉料金を要することになる

汽船衝突 遼河々口で沈沒

【營口國通】卅一日午前九時營口牛家屯沖にて入港せんとする海昌公司所有船海平號(二〇三五噸)と出港せんとするアジア石油會社船ソウレン號(四千噸)とが衝突し海平號は三分間にて沈沒した、乘組員六十七名は何れもソウレン號に救助されたが搭載貨物なく損害は船体のみにて二十萬圓の見込みであるが、十三萬圓の損害保險に加入してゐる遼河々口にての沈沒汽船はこれで開港以來三隻目である

閘北日人骨粉工場襲はる

【上海卅一日發國通】卅日午後五時閘北に在る日本人兒玉英藏經營の骨粉工場に三百餘の支那人暴徒押寄せ、機械類を破壞し目ぼしい品物を掠奪し去つた事件あり、急報に依り公安局巡捕急行首謀者數名を逮捕し目下嚴重取調中であるが、排日空氣終熄の折柄突如勃發したこの襲擊事件は非常に注意を惹いてゐるが、目下のところ排日團体の煽動或は深き排日根據なく單なる私怨に依る模樣である

白菊校ゆきバスは一台で三往復 兒童達の通學に宛てる

西廣場小學校の分教場として一日から假開校することになつた白菊小學校の通學兒童に對し通學專用のバス運轉方を學校側から滿電に交渉中であつたが、今のところ同バスを利用する實際人員が明瞭でなく取敢えず午前七時五十分から八時五十分まで、午後二時から三時三十分までの間に午前午後それぞれ二台を以て三往復することになつた一台の定員三十名として全部で百八十名しか收容出來ぬわけでそれ以上の場合はなほ兩者の折衝のうへ決定されるはずである

消費組合主任更迭

滿鐵社員消費組合新京支部前主任澤川重幸氏はさる二十九日大連本部の販賣主任に榮轉赴任した、後任には鞍山支部主任近藤榮次氏が五日着任の豫定

訃報

▲山崎松雄氏(霞月町三丁目七十七號ノ三)女濟子さん三十日午前八時五分死亡
▲安岡龍十郎氏(滿鐵新京醫院內)三十一日午前一時三十分死亡

次回新讀物豫告

目下本紙に連載中の大衆讀物は愛讀者の大喝采の裡に愈々近日完結を告げることになつた。引續いてその次に連載する新讀物は、現文壇の巨匠長田秀雄氏の執筆にかゝる傑作「女人婆羅門」の一篇である。本篇は作者の言葉にもある如く、慌ただしい明治初期に於ける文明開化思想を背景にし、異國情調と海島情調とを巧に織り交ぜて描寫せるもの、誠に珍奇な人情風俗に、讀者の好奇心をそゝり立て、感興盡るを知らざらしめることであらう。尙插繪は流麗な畫風を以て插繪界に鳴る西正世志氏の神品、共に御期待を乞ふ。

女人婆羅門
長田秀雄氏作　西正世志氏畫

作者の言葉

この小說は、明治時代のあはたゞしい文明開化思想を背景とし、近ごろ、文壇で問題になりかけた山窩生活を經とし、異風極まる突拍子もない旋風時代の、人事風物を描寫し、荒削りな山窩調と、感傷的な異國情調と、海島情調とを織りまぜた一篇の人間葛藤史である。撫ふに、今後の大衆作家は在來の大衆作家の勉强程度に滿足せず、もつと勉强し、熱情に富み、苦惱し哲學し、宗敎し、深く根底を究めてかゝらなければ、決して好い作品は書けない筈である。そのため自分も人一倍、勉强してゐるつもりであるが――、作品に、それを認めていたゞいたなら、非常な幸ひである――

(寫眞右長田秀雄氏 左は西正世志氏)

日本の聖女（上篇）

生田葵 作

一四四 放浪の旅（二〇）

「あつしは嫌疑りしたのでとがめられずにすみましたが、行すぎるとその茶屋の横で昨日の關所方同やあつしに關所の手形を渡してくれた暗所の木照院の納所坊主が立小便してゐたのを發見し、そばへゆくと言葉は云はす手眞似で、この一隊がこの家を目がけてゆくんだとしらせてくれたんたんです それにあの納所坊主は親切にも、自分は案内を頼まれたんだが、道を間ちがへたりして手間ひまをとらすから、其間に早く逃げろと云つてくれました。ちつとだつて愚圖々々しちやゐられません」

「ようし。何うしてこの隠れ家が知れたか。あの納所坊主が道案内だとすりや、關所手形から手かかり付けたんだらう。――これお

茶番劇をしろ。さうだ清次郎其方はお春とお定を連れて餘の濱に繋いである船の中へ隠れろ。――正之助お前はお粂やお栄を連れ一先づ、山越しに京都へ入込んでくれ」

さう云ふと、森村は、忙がしく正面の押入を明け、金を納めた小箱を取出すと、内部へ手を突つ込み、

「こゝに百五十兩ある。各自に五十兩づゝ分けて肌につける。これで當分のしのぎを附て置け。拙者等はこの濱から一先ず北國を目指して落ちてゆく。その中に居所が定つたなら、清次郎を使に出して迎へるやうにする。――早くゆけ」

形勢が切迫してゐるので三人は否やを云はず、渡された金子を各自に分配して肌に納めると早速におり立つた

「それでは當分……で待つ……」

「お粂が云つて、三人は一散する家の裏手の木立の中の小徑を拔本の方へのがれていつた。

「さあ、お春、お定、清次郎よ一緒に、前の濱の船へ乗り込めー

「貴方様は」

お春とお定が同音にきいた。

「私も一緒にゆく」

數之丞は身支度して大小を佩した後、牛頭清次郎を京都の紀伊國屋宗右衛門の許へ使にやつて取寄せた短銃を手にすると、三人と一緒に玄關口から外へ出た。

既に岸田、宇和島の指揮するとり手は表口へ達してゐた。

しかし本隊でなく斥候らしく二人程が表の高塀にくものやうにへばりついてこ方の様子を窺つてゐた。

とり手へ鐵砲を浴びせかけると短銃を上げて一發ズドンと放して一人を倒した。

二人は懸命に、逃げ出していつた。

既に四邊にはたそがれの氣配が動き出してゐる中を悠々と落着き拂つて、前の濱へ歩き、然うして其處のあしの中に繋ぎある船の中へ四人共に乗込んだ。

其れと同時に道の彼方に大勢の人數がこ方へ走り出して來たが、船はもう岸を放れて沖の方へ漕ぎ出してゐた。

「待て、森村、逃げやうとて逃がさぬぞ」

間近く來た岸田が船に向つて呼びかけたが、こ方は素知らぬ態で清次郎が、腕を限りに櫓をあやつり夜のとばりのおり初めた沖の方へ、沖の方へと、遠ざかつていつた。

（續）